

「新編 新しい国語」
指導計画作成資料
年間指導計画編

目次

○ 1 ・ 2 年	年間指導計画		1
○ 3 ・ 4 年	年間指導計画		10
○ 5 ・ 6 年	年間指導計画		15
○ 2 ・ 3 年	年間指導計画		20
○ 4 ・ 5 年	年間指導計画		26

1・2年 複式年間指導計画案 ＊…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項 I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い II…同領域異教材で一部一斉に行う扱い III…同領域同教材（1・2年同時に行い、「わたり」を行わない扱い） IV…異領域異教材など、I、II、IIIのどれにも当てはまらない場合	
--	--

月	単元名・教材名 1年	配当時数	単元名・教材名 2年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点	
4	きこえるよ 読	2	はなしたい、ききたい、すきなこと 話聞	2	Ⅲ	国語学習のスタートをいっしょに行う。初めに、2年生がリードする形で1年生といっしょに「きこえるよ」を読ませて、みんなといっしょに声を出す楽しみを味わわせる。2年生は、言葉のリズムを楽しみながら音読するモデルを1年生に示すことができるようにしたい。この後の学習の始まりにも、繰り返し音読するようにする。次に、1年「よろしくね」、2年「はなしたい、ききたい、すきなこと」を学習する。教師の自己紹介を聞き、単元のねらいや見通しを持たせる。1年生は「名前」と「好きなこと（もの）」を、2年生はそれらに「好きな場所」を加えて伝え合う活動を設定する。	
	よろしくね 話聞	1	〇お話を音読しよう 風のゆうびんやさん 読	10		1年「たのしくかこう」では、2年生がミニ先生となって姿勢や鉛筆の持ち方を教え、1年生が安心して平仮名を書く学習を行うことができるような環境作りに努める。1年生が平仮名を書く練習に取り掛かったら、2年生は「風のゆうびんやさん」の音読練習をする。音声CDの朗読音声を利用して、読めない漢字に読み仮名をつけるなど、児童が中心になって学習を進めるようにする。	
	たのしくかこう 言葉	1					
	なんていうのかな 話聞	2				Ⅳ	* 基本的に異領域異教材で学習を行うが、児童の実態に応じて、2年生が1年生にアドバイスしたり、両学年の学習の交流を図ったりする活動を可能な範囲で行う。 【1年】 「なんていうのかな」「こえをとどけよう」「もじをかこう」 別個に学習するのではなく、1時間の授業の中に三つの学習を組み込むようにする。例えば、「①ひらがな練習 → ②絵を見て、あいさつの言葉を言う → ③挿絵を見て声の調整をする」という1時間の活動を4回行う。このとき、生活科の学校探検で出会った人や見つけたものとの関わりから、言葉の学習へとつなげていくようにする。人と関わるときに大切な言葉や声の大きさ、見つけたものを平仮名で書くときの読み方や書き方など、言葉の学習の土台作りに無理なくつなぐように配慮したい。1年生が声を出す際には、2年生がアドバイスする場を設定するなど、両学年の学習の交流を図るようにする。 「あいうえおのうた」「あいうえおのことばをあつめよう」 引き続き平仮名の練習と並行して行う。ここでも最初は2年生が1年生のそばにつき、教えたり問題を出したりして、1年生が自分で行えるようになってから離れるようにする。また1年生も、先生役が前に出て、指や指示棒で指しながら「あいうえおのうた」や「あいうえおのことばをあつめよう」の文字を音読するといった、自分たちで学習する準備を行う。 【2年】 「かぜのゆうびんやさん」 登場人物の様子が伝わるように、物語を音読することをねらいとする。「音読」という用語を確認して学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。物語を音読し、登場人物を確認することで内容の大体を捉える。手紙を受け取ったときの人物の行動や発言、場面の様子を思い浮かべて音読するようにする。その際、人物の様子が分かる言葉に線を引くことも行わせる。どんな様子を想像したかを話して音読を聞き合う。音読するときにどんなことに気をつけたかを振り返る。最後に、学んだことを生かして、1年生を聞き手として音読をする場を設定する。 「かん字をつかおう1」 授業の冒頭や2年の自学時間を利用して、並行して「かん字をつかおう1」（教科書25ページ）に取り組ませる。前学年で学習した漢字を使って黒板やノートに文を書く。挿絵を、文を作る際の参考にさせる。以下、「かん字をつかおう」については同じ。
	こえをとどけよう 話聞	1	かん字をつかおう1 言葉	1			
	もじをかこう 言葉	1					
	あいうえおのうた 言葉	2					
	あいうえおのことばをあつめよう 言葉	3					
	ほんがたくさん 読書	2	としょかんへ行こう 読書	2	Ⅲ	* 1・2年いっしょに学習を行う。 学校図書館を利用して読書に親しむこと、図書館の利用の仕方や置かれている本について理解することをねらいとする。 【1年】まず絵本の読み聞かせを通して本を読むことへの関心を高める。その後、2年生といっしょに学校図書館での過ごし方について考え、実際に図書館で過ごしてみる。 【2年】1年時の経験をもとに、図書館の利用の仕方について話し合い、図書館のどこにどのような本が置かれているかを確かめさせる。	
	あめですよ 読	4	はたらく人に話を聞こう 話聞	4	Ⅳ	* 2年は「かん字の書き方」と「はたらく人に話を聞こう」の学習順を入れ替える。 【1年】 絵と言葉を結び付けて、場面や人物の様子を思い浮かべ、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけながら音読することをねらいとして学習を行う。雨に関する体験を想起し、全文の音読を聞いて、単元の学習課題をつかむ。絵の人物や擬声語を比べ、様子を想像して気づいたことや思ったことを伝え合う。学習したことをもとに、場面の様子を想像しながら音読をして、単元の学習を振り返る。音読を2年生に聞いてもらい、学習したことを交流する。 【2年】 学校で働く人に話を聞いて、だいたいなことを聞き取ることをねらいとする。質問を考えてだいたいなことを落とさずに聞くという学習課題を捉えて、学習の見通しを持つ。教科書36ページのやりとりの音声（QR「話を聞いてみよう」）を聞き、質問の仕方や話の聞き方について考える。実際に話を聞いた後に、聞いたことを伝え合う。	

5	ふたとぶた 言葉 みんなにはなそう 話聞 ぶんをつくろう 書 「は」をつかおう 書 「を」「へ」をつかおう 書	2 4 2 1 2	かん字の書き方 言葉 ○たんぼぼのひみつを見つけよう 読 たんぼぼ	3 10	IV	＊ 5 月前半は、1 年が「読むこと」以外の単元を学習している間に、2 年は「たんぼぼ」を 10 時間かけて読むという計画で行い、教師は 2 年を中心に支援する。「話すこと」「書くこと」などの言語活動を行う場を設定することで、教師がいなくても自分たちで学習を進める環境を整えようという意図による。 〔1 年〕 「ふたとぶた」 清音、濁音の表記と音の違いを理解して、読んだり書いたりすることができることをねらいとしている。単元の学習課題をつかんだ後、清音の語と濁音を含む語を比べて読んだり書いたりしながら、濁点が付くことで発音や意味が異なることを理解する。次に、身の回りにある濁音・半濁音を含む語を読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、身の回りの濁音を含む語を掲示して、2 年生にも見てもらったり、2 年生からも問題を出してもらったりする場を設定する 「みんなにはなそう」 身の回りで見つけたものの中から紹介するものを決め、相手に聞こえるように、声の大きさを工夫して話すことができることをねらいとしている。学校内で見つけたものを出し合い、クイズにして発表するものを決める。クイズのやりとりをする話型を確かめ、話したり聞いたりする。その際、2 年生にも参加してもらう。 「ぶんをつくろう」 主語と述語との関係を考えて、「○○が……する。」の文型で、意味が明確な文を作ることができることをねらいとして学習する。助詞「が」の働きを知り、写真をもとに主語と述語のある文を作らせる。その後、お話の場面を想像しながら、音読を楽しむ。2 年生に音読を聞いてもらう場を設定し、単元の学習を振り返ることができるようにする。 『は』をつかおう 助詞の「は」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができることがねらいである。助詞の「は」の使い方を知り、正しく読んだり書いたりする練習をさせる。正しく読んだり書いたりできているか、2 年生に確かめてもらう場を設定し、学習を振り返らせる。 『を』『へ』をつかおう 助詞の「を」「へ」の使い方を理解して、一文の意味が明確になるように文を書くことができることがねらいである。助詞「を」「へ」の使い方を知り、正しく読んだり書いたりする練習をする。正しく読んだり書いたりできているか、2 年生に確かめてもらう場を設定し、学習を振り返らせる。 〔2 年〕 「かん字の書き方」 漢字の筆順と画数について理解することがねらいである。既習の漢字を使って筆順と画数を確かめさせ、漢字を正しく書けるように練習させる。 「たんぼぼ」 順序を考えて読み、文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、たんぼぼについて知っていることを出し合い、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読み、書かれている順序に着目しながら、たんぼぼの秘密を見つける。見つけた秘密の中から友達に伝えたい秘密を選び、文章に書いて伝え合う。どんな言葉をもとに順序について考えたかと振り返らせる。最後に、1 年生に伝える場を設定し、学習の交流を図る。
	とんこととん 読 さとうとしお 読	5 4	かん字をつかおう 2 言葉 かんさつしたことを書こう 書	1 8	IV	＊ 5 月後半は、1 年が「読むこと」の学習を行い、2 年生は「書くこと」の活動を行う。教師は 1 年生を中心に支援する。 〔1 年〕 「とんこととん」 場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉えることをねらいとして学習を行う。ねずみともぐらの行動を中心に、場面の様子や人物の会話を想像しながら読ませていく。その後、お話の場面を想像しながら、音読を楽しむ。2 年生に音読をしてもらう場を設定し、単元の学習を振り返ることができるようにする。 「さとうとしお」 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、自分の体験と結び付けて感想を持つことをねらいとして学習を行う。問いごとに砂糖と塩を比べながら、書かれていることを読み取る。自分の体験と結び付けて感想を伝え合わせて、単元の学習を振り返らせる。 〔2 年〕 「かん字をつかおう 2」 「かん字をつかおう 1」に同じ。 「かんさつしたことを書こう」 身の回りのものを観察して記録する文章を書くことをねらいとする。学習課題を明確にし、学習の見通しを持った後、身の回りの花や、育てている野菜などを観察し、大きさ・形などで気がついたことをメモに書く。このとき、教科書 52 ページの「田中さんのメモ」を参考にさせて、大きさや色、数などを書くようにさせる。そして、教科書 51 ページのような「観察カード」を仕上げていく。最後に、友達と互いの文章のよいところを伝え合うなどして単元の学習を振り返らせる。

月	単元名・教材名 1 年	配当時数	単元名・教材名 2 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
6	きいてつたえよう 話聞 ねことねっこ 言葉 ことばあそび 言葉 あひるのあくび 言葉 のばすおん 言葉 どうやってみをまもるのかな 読 いしやといしや 言葉 こんなことしたよ 書	2 2 3 3 2 6 2 5	かたかなで書くことば 言葉 ○すきな場めんを見つけよう 読 名前を見てちょうだい かん字をつかおう 3 言葉 じゅんじょ 情報 こんなことをしているよ 書	3 11 1 3 10	IV	＊基本的に異領域異教材で学習を行うが、児童の実態に応じて、2年生が1年生にアドバイスしたり、両学年の学習の交流を図ったりする活動を可能な範囲で行う。 〔1年〕 「きいてつたえよう」 だいじなことを落とさないように集中して聞き、グループの人に正しく伝えることをねらいとする。学習課題を確かめた後、活動の進め方を知り、聞き方や伝え方について考える。話の聞き方や声の大きさに注意して、ゲームを楽しむことができるようにした後、学習を振り返らせていく。 「ねことねっこ」 促音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることをねらいとして学習する。促音を含む語と含まない語を比べて読んだり書いたりしながら、促音の発音や役割を理解する。さらに、身の回りにある促音を含む語を、動作化しながら読んだり書かせたりする。単元の学習を振り返った後、促音を含む語を掲示して、2年生にも見てもらう。 「ことばあそび」 言葉遊びに親しみながら、平仮名を読んだり書いたりすることをねらいとしている。教科書の「しりとり」や「ことばみつけ」をしながら、その決まりを理解するとともに、平仮名の読み書きに習熟できるようにする。また、身の回りの言葉を使ってしりとりや言葉見つけをして、語彙を増やす。 「あひるのあくび」 五十音図の特徴を理解して、平仮名を正しく読み、姿勢や口形、発声や発音に注意して声に出すことができることをねらいとして学習を行う。「あひるのあくび」の詩の仕組みを理解した後、五十音を音読したり視写したりして、その特徴に気づくようにする。さらに、「あひるのあくび」をまねて詩を作り、友達と読み合ったり、2年生に紹介したりする。 「のばすおん」 長音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることをねらいとして学習する。長音に含まない語と含む語を比べて読んだり書いたりしながら、発音や表記のきまりを理解する。さらに、身の回りにある長音を含む語を探して、読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、長音を含む語を掲示して、2年生にも見てもらう。 「どうやってみをまもるのかな」 事柄の順序を考えながら読み、文章の中の重要な語や文を選び出すことをねらいとして学習する。単元の学習課題をつかんだ後、説明されている内容への感想を持ち伝え合う。次に、「どんなからだをしているか」「てきがきたらどうするのか」について三つの事例を比較しながら読む。そして、説明の順序（段落構成・文構成）を確かめる。動物の身の守り方について感想を伝え合い、単元を振り返る。感想は、2年生にも聞いてもらう場を設定する。 「いしやといしや」 拗音、拗長音及び拗促音の表記と音節の対応を理解して、読んだり書いたりすることをねらいとして学習する。拗音に含まない語と含む語を比べて読んだり書いたりしながら、発音や表記のきまりを理解する。教科書の絵を見て、それぞれの語を声に出して音を確認めるとともに、視覚化したり動作化したりしながら、拗音・拗長音・拗促音の音節と文字の対応を理解する。さらに、身の回りの拗音を含む語を探して読んだり書いたりする。単元の学習を振り返った後、長音を含む語を掲示して、2年生にも見てもらう。 「こんなことしたよ」 伝えたい内容が明確になるように、語と語や文と文の続き方に気をつけて、文章を書くことをねらいとして学習する。学校での出来事を思い浮かべて、様子が伝わるように文章を書く。文章を書く際に困ったら、2年生からアドバイスをもらうようにする。書いた文章を読み合い、感想を伝え合い、単元の学習を振り返る。 〔2年〕 「かたかなで書くことば」 片仮名で書く言葉について理解し、文や文章の中で正しく使うことができることをねらいとする。これまでの生活経験などから、身の回りにはどんな片仮名で書く言葉があるか考えさせて、学習の見通しを持たせる。片仮名の言葉を集めて、片仮名で書く言葉の種類を理解する。片仮名を正しく書く練習をし、集めた言葉で短文を作る。 「名前を見てちょうだい」 物語をいくつかの場面に分けて、好きな場面を見つけることをねらいとする。既習の物語の「場面」について想起して、学習の見通しを持つ。「名前を見てちょうだい」を読み、物語の場面を確かめさせる。好きな場面を見つけ、その場面を友達に伝える場を設ける。最後に、好きな場面と選んだ理由を振り返らせる。 「かん字をつかおう 3」 「かん字をつかおう 1」に同じ。 「じゅんじょ」 物事の順序について理解し、順序に気をつけて文や文章を書くことをねらいとする。教科書 74 ページの漫画から、なぜ作り方が分からなかったのかを考えさせる。分かりやすく伝えるためには順序が大切だということに意識を向けさせる。教科書 75 ページのポイントから、順序にはさまざまな種類のものがあることを理解させたうえで、図工や生活などでの問題場面を設定し、順序に気をつけて文や文章を書かせる。 「こんなことをしているよ」 組み立てを考えて、経験したことを伝える文章を書くことをねらいとする。学習課題を明確にし、学習の見通しを持ったうえで、家でしていることを振り返りながら、文章に書く事柄を考える。教科書 78～79 ページの作品例を読んだり、友達と話し合ったりしながら、組み立てを考えて文章を書く。最後に、友達と互いの文章のよいところを伝え合うなどして学習を振り返らせる。
	おおきなかぶ 読	6	○二つの文しょうをくらべよう 読 どうぶつ園のかんばんとガイドブック （7月に続く）	10	I	〔1年〕 「おおきなかぶ」 場面の様子の違いに着目して読み、人物の行動を具体的に想像することができることをねらいに学習する。単元の学習課題をつかんだ後、お話の大体をとらえる。お話の順序を確かめ、場面の様子を想像させる。場面の様子や人物の行動について想像したことをもとに音読の練習を行い、2年生に音読発表を行う機会を設ける。2年生からの感想やアドバイスを聞き、単元の学習を振り返ることができるようにする。 〔2年〕 「どうぶつ園のかんばんとガイドブック」 二つの文章を比べて、それぞれのよいところを考えることをねらいとする。二つの文章を読み比べて、違いを考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。動物園のアフリカゾウの説明が書かれた二つの文章を読み、見出しに沿って表に整理して共通点や相違点を見つけさせていく。そこから、看板の説明のよさ、ガイドブックの説明のよさに目を向けさせ、その役割に違いがあることを理解させていく。最後に、二つの文章の説明の仕方と役割の結びつきについて考えたことを振り返らせる。

月	単元名・教材名 1 年	配当時数	単元名・教材名 2 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
7	ことばあそびうたをつくろう 書	5	(6月から続く) ○二つの文しょうをくらべよう 読 どうぶつ園のかんばんとガイドブック		Ⅳ	〔1年〕 「ことばあそびうたをつくろう」 身の回りのものから書くものを見つけ、それに関わる音や様子を表す言葉を集めたり確かめたりして、擬声語や擬態語を使った詩を作ることができるようにすることをねらいとする。身の回りのいろいろなものの音や様子を思い浮かべて、擬声語や擬態語で表してみた後、自分たちの「ことばあそびうた」を作って、発表会を開く。発表会には2年生も参加してもらう。
	かたかなをみつけよう 言葉	2	話そう、二年生のわたし 話聞	5	Ⅳ	〔1年〕 「かたかなをみつけよう」 片仮名で書く言葉を見つけ、片仮名を読んだり書いたりすることをねらいとする。身の回りの片仮名を見つけて読んだり書いたりするという学習課題をつかんだ後、教室などから、片仮名で書く言葉を探す。そして、教科書 101 ページの QR コンテンツを使って片仮名の書き方を知り、書く練習をする。正しく書けているか2年生に見てもらおう場を設定する。困ったときには、2年生からアドバイスをもらう。最後に、単元の学習を振り返らせる。
	えにつきを かこう 書	6	言いつたえられているお話を知ろう 伝統	4		「えにつきをかこう」 経験したことから書くことを見つけ、必要な事柄を考えて文章を書くことができることをねらいとする。夏休みの思い出をみんなに知らせるために「えにつき」の書き方を学習するという課題をつかむ。まず、「えにつき」の書き方を学習し、「えにつき」を書かせる。書いた「えにつき」を友達と読み合ったり、2年生にアドバイスをもらったりして、単元の学習を振り返らせる。
9	としょかんはどんなところ 読書	1	二年生の本だな 読書 一本はあたらしいせかいへの入り口	4	Ⅲ	＊学習領域をそろえるため、1 年は教科書の学習順を入れ替える。 〔1年〕 学校図書館を利用して読書に親しみ、図書館を活用することをねらいとする。まず、図書館について知っていることを出し合い、単元の学習課題をつかませる。そして、図書館に行って本棚などを見て回り、知っていることや気づいたことなどを出し合わせる。そうすることで使い方や過ごし方を考えさせ、ルールを伝える。その後、読みたい本を探して学校図書館で読む時間を取り、単元の学習を振り返らせる。 〔2年〕 読書に親しみ、多様な本を選んだり読んだりすることをねらいとする。夏休み前に図書室で本を借りる際に、どのような本を借りるのか計画を立てさせるときに実施するとよい。最初に、教科書 104 ページの読書体験文を読ませる。1 年生には2年生が付いて読み聞かせをするのもよい。教科書に紹介されている本などを手がかりにして、読みたい本を探して読ませ、1 年生とともに、夏休みの読書へつなげる。
	あるけあるけ き 読読	3	○しを読もう 読 いろいろなおとのあめ 空にぐうんと手をのばせ	3	Ⅱ	両学年とも、語のまとまりや言葉の響き、リズムなどに気をつけて、楽しみながら詩を音読することをねらいとして学習する。 最後には、好きな詩を選び、音読を発表して感想を伝え合う場を設定する。
	はなしたいなききたいな 話聞	5	みんなで話し合おう 話聞	8	Ⅱ	〔1年〕 夏休みに経験したことの中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んで話したり、話を集中して聞いて内容を捉えて感想を持ったりする。みんなに話したい思い出を選んで、教科書の例を参考に話の組み立てを考える。声の大きさや速さなど、分かりやすく話す工夫についても考えるようにする。発表は、2 年生にも聞いてもらい、内容や話し方についての感想から単元の学習を振り返るようにする。 〔2年〕 互いの話をよく聞いて、言葉をつないで話し合うことをねらいとする。学習課題を明確にして学習の見通しを持たせる。「行ってみたいお話の世界」を選び、そこでしたいことを話し合う。その際に教科書 113 ページの QR コンテンツの動画を視聴させるなどして、言葉をつないで話し合いをするイメージを持たせるとよい。話し合いの様子を撮影して、後で見返すことができるようにしておく。最後に、話し合うときにどんなことに気をつけたかを振り返らせる。
9	かぞえうた 言葉	6			Ⅳ	〔1年〕 かぞえうた 物の数え方に関わる語彙を豊かにするとともに、漢数字を読んだり書いたりすることができることをねらいとする。学習課題をつかんだ後、漢数字「一」～「十」の読み書きをする。さらに、自分の数え歌を完成させて読み合ったり聞き合ったりする。その際、2 年生にも紹介する。
	かいがら 読	6	○そうぞうをふくらませて読もう 読 ニャーゴ	12	Ⅰ	〔1年〕 場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像することができることをねらいとして学習する。一日目の出来事を読み取り感想を伝え合った後、一日目の「くまのこ」の行動のわけ・意味について考えさせる。二日目の出来事を読み取り感想を伝え合わせた後、最後の場面での登場人物の気持ちを想像させる。最後に、好きなところを紹介する場を設定し、2 年生にも聞いてもらう。 〔2年〕 人物の様子を想像して、音読で表すことをねらいとする。題名や挿絵から物語について想像を広げるとともに、学習課題を捉えて、学習の見通しを持たせる。「ニャーゴ」を読み、物語の中で起こった出来事を場面ごとに確かめさせる。人物の行動や会話から様子を想像させ、想像したことを音読で表すようにする。互いに聞き合い、人物のどんな気持ちをどのような声で表したか確かめ、単元の学習を振り返る。
	かんじのはなし 言葉	6				漢字の成り立ちや意味を考えながら、第 1 学年に配当されている漢字を読んだり書いたりすることをねらいとして学習する。初めに、象形文字「山」「木」「川」「口」「目」の成り立ちを理解し、正しく書く。次に、指事文字「上」「下」の成り立ちを理解し、正しく書く。さらに、習った漢字を使って文を書くようにする。

月	単元名・教材名 1 年	配当時数	単元名・教材名 2 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
10	※ここより教科書下巻を使用する。 ○おはなしをよもう 読 サラダでげんき	9	※教科書上巻を使用する。 かん字をつかおう 4 言葉 ものの名前をあらわすことば 言葉 絵を見てお話を書こう 書	1 3 10	IV	*10 月前半は、1 年は下巻を使用し、2 年は上巻を使用する。 【1 年】 「サラダでげんき」 場面の様子や人物の行動など、内容の大体を捉え、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想を持つことをねらいとして学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、物語の中で起こった出来事をつかませる。「りっちゃん」に教えたいことを考えて、「りっちゃん」に手紙を書かせる。書いた手紙を読み合い、感じたことを伝え合わせる。その際、2 年生にも聞いてもらい、感想を聞かせる。最後に、単元の学習を振り返らせる。 「かたかなをかこう」 片仮名の表記を理解し、正しく読み書きすることをねらいとする。片仮名の書き方を知り、書く練習をさせる。正しく書けているか、2 年生に見てもらう場を設定する。そして、身近なものの中から片仮名で書かれた言葉を集めて文を作らせる。困ったときには、2 年生からアドバイスをもらうようにする。最後に、単元の学習を振り返らせる。 「一ねんせいのほんだな」 いろいろな本を読み、読書に親しむことができることをねらいとする。読みたい本を探して読むという単元の学習の見通しを持ち、読書体験文の読み聞かせを聞くようにする。教科書に紹介されている本や2 年生が紹介してくれた本などを手がかりにして、読みたい本を探して読むことができるように支援する。 【2 年】 「ものの名前をあらわすことば」 物の名前を表す言葉について理解し、語彙を豊かにすることをねらいとする。意味によるまとまりを考えながら、身近な物の名前を表す言葉を集めさせる。その際、「ことばの広場」(144 ページ)を活用させてもよい。1 年の学習を想起させ、「まとめて呼ぶ言葉」と「仲間になる言葉」に分類することも行わせる。集めた言葉を使って文を作ることで言葉の使い方を意識させる。 「絵を見てお話を書こう」 内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことをねらいとする。場面のつながりを考えて物語を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持たせる。まず、①②④の絵 (135ページ)を見せるとともに、登場人物像や場面ごとの様子について分かったことや想像できることを話し合わせる。①②④の情報をもとに、③の場面ではどんな出来事が起こったのか考えて物語を書かせる。書いた物語の発表会を開き、楽しい、おもしろいと思ったところを伝え合わせる。最後に、どのようなことに気をつけてつながりのある物語を書いたかを振り返らせる。
	なにに見えるかな 話聞 よう日と日づけ 言葉	6 3	※ここより教科書下巻を使用する。 ○ビーバーのひみつを伝えよう 読 ビーバーの大工事	11	IV	【1 年】 「なにに見えるかな」 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて楽しく話をつなぐことをねらいとして学習を行う。単元の見通しを持たせた後、写真を見ながら、想像を広げて話し合いを行わせる。次に、楽しく話をつなぐために大切なことをつかんだ後、写真を見て考えたことについてグループで話し合わせる。可能であれば、2 年生にも聞いてもらってアドバイスをもらい、単元の学習を振り返る。 「よう日と日づけ」 曜日と日付を表す語句の量を増やし、漢字を使って正しく読み書きすることをねらいとする。曜日と日付を表す言葉や漢字を使った書き方を知るという学習課題をつかませる。曜日と日付を表す言葉を理解し、漢字を使って正しく読み書きができるように練習させる。日付と曜日を使って、予定を伝える文を書かせて、単元の学習を振り返ることができるようにする。 【2 年】 「ビーバーの大工事」 文章を読んで見つけたビーバーの秘密を伝え合うことをねらいとする。「たんぼぼ」での学習を振り返り、学習の見通しを持つ。文章をよんで、何が書いてあったか確かめる。必要に応じて、教科書9ページのQRコンテンツ「ビーバーのどうが」からビーバーのダム・巣作りの様子を見せる。体のこと、特徴、ダムを作る理由など項目を示し、ビーバーの秘密を見つけることができるようにする。そして、見つけた秘密を伝え合う場を設ける。最後に、伝えたい秘密をまとめるときどのような言葉をもとに考えたかを振り返らせる。
	はっけんしたよ 書 ひらがなをつかおう 1 言葉	9 1	本でしらべる 情報 「どうぶつカード」を作ろう 書	3 8	I	*11 月前半は、書くことを中心とした学習を行う。活動はできるだけ児童に委ね、必要な児童に支援できるように活動を見守る。 【1 年】 「はっけんしたよ」 観察した動植物の様子を伝えるために必要な事柄を集め、伝えたいことを明確にして書くことをねらいとして学習する。生活科の時間に見つけた身近な動植物を観察して気づいたことを記録するという学習課題をつかませ、単元の学習の見通しを持たせる。まず、気づいたことを記録するための「はっけんメモ」を書かせる。この時、教科書 39 ページの「はっけんメモ」の例を参考にさせる。そうして、観察した動植物の様子を伝える文章を書かせたら、友達や2 年生に読んでもらい、感想を聞いて単元の学習を振り返ることができるようにする。 「ひらがなをつかおう 1」 「え・へ」「お・を」「わ・は」の使い分けを復習させる。QR コンテンツの練習問題も活用する。 【2 年】 「本で調べる」 知りたいことを本で調べる方法を理解し、調べて分かったことを書くことをねらいとする。知りたいことに関係のある言葉を手がかりにして、図鑑などの本で調べること、目次を活用することを理解する。 『「どうぶつカード」を作ろう』 調べたことを「どうぶつカード」に分かりやすくまとめることをねらいとする。「ビーバーの大工事」での学習を踏まえて、動物について本で調べた情報を「カード」にまとめるという単元のねらいを確認する。まず、調べる動物を決めさせることから学習を始める。「本でしらべる」での学習を生かす。次に、選んだ動物について知りたいことや調べて分かったことをノートなどに書く。そして、書いたことを、教科書 25 ページを参考にして「どうぶつカード」にまとめていく。完成したカードを、友達と読み合う。最後に、調べたことをまとめるときに気をつけたことについて振り返らせる。

月	単元名・教材名 1 年	配当時数	単元名・教材名 2 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
	○ふねのせつめいをよもう 読 いろいろなふね	7	主語とじゅつ語 言葉	3	IV	〔1 年〕 「いろいろなふね」「『のりものカード』をつくろう」 自分で決めた「のりものカード」を作るための事前学習として「いろいろなふね」を読むという単元を設定する。まず、「いろいろなふね」を読んで、書いてあることを確かめさせる。この時、船の役目と造りを考えることができるようにする。必要に応じて、教科書 43 ページの QR コンテンツを利用して、船の動画を視聴させ、乗り物について調べる意欲をもつことができるようにする。読み取ったことをまとめさせ、伝え合う場を設ける。そうして、船の役目と造りを確かめることができたかを振り返らせ、身につけた「言葉の力」を確かめ、「のりものカード」作りに向かうことができるようにする。 乗り物のことを調べてカードに書くという学習課題を確かめて、単元の学習の見通しを持たせる。調べたことをカードに書かせていく。教科書 54 ページの例を参考にさせる。そうして完成したカードを紹介し合う場を設定する。2 年生からアドバイスをもらうようにしてもよい。説明の文章を読むときのポイントについて確かめ、単元の学習を振り返る。 「まとめてよぶことば」 言葉には意味による語句のまとまりがあることにきづき、上位語と下位語を理解して、語彙を豊かにすることをねらいとする。同じ仲間の言葉をまとめて呼ぶ言葉について知るという学習課題をつかむ。次に、仲間になる言葉やまとめて呼ぶ言葉を集めたり分類したりする。そして、まとめて呼ぶ言葉と仲間になる言葉を使った短文を作ってその関係を捉えた後、単元の学習を振り返る。 〔2 年〕 「主語とじゅつ語」 主語と述語の働きを理解することをねらいとする。主語と述語がどのようなものであるかを押さえさせ、学習課題を明確にできるようにする。短い文を作って、主語と述語の関係を確かめることができるようにする。さらに、さまざまな文を使って、主語と述語の関係を確かめさせる。 「町で見つけたことを話そう」 町で見つけたことについて、組み立てを考えて話すことをねらいとする。話す事柄の順序を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話す。初めに、生活科で学習した「町探検」と関連して町で見つけたことを振り返って、何を話すかを決める。次に、聞き手に伝わるように、話の組み立てを考える。教科書 36 ページの動画も必要に応じて視聴させる。材料集めや話す練習の際にペアでの学習を取り入れる。練習を生かしてみんなの前で話す。最後に、どのように組み立てを考えたかを振り返らせる。 「なかまになることば」 仲間になる言葉に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとする。仲間になる言葉とはどのようなものかを押さえさせ、学習課題を明確にできるようにする。教科や色、形など、身の回りから仲間になる言葉を集めて分類させる。
	「のりものカード」をつくろう 書	8	町で見つけたことを話そう 話聞	7		
	まとめてよぶことば 言葉	3	かたかなをつかおう 言葉 なかまになることば 言葉	1 3		
11	すきなきょうかをはなそう 話聞	5	「ありがとう」をつたえよう 書	6	IV	〔1 年〕 「すきなきょうかをはなそう」 相手に伝わるように、話す事柄の順序を考え、声の大きさや速さなどを工夫して話すことをねらいとして学習する。単元の学習の見通しを持った後、好きな教科について考えて話すことを決めさせる。話す練習をした後、1 年生と 2 年生の前で話す。順序よく話すためのポイントを確かめ、単元の学習を振り返らせる。 「ことばであそぼう」 言葉遊びを通して言葉の豊かさに気づくことをねらいとする。学習の見通しを持った後、「さかさによんでも」（回文）で遊ぶことができるようにする。次に、「だじゃれ」で遊ぶ。次に、「わたしはだあれ」で遊ぶ。最後に、言葉遊びのおもしろさについて振り返らせる。 〔2 年〕 『ありがとう』をつたえよう」 感謝の気持ちを相手に伝えるために必要なことを考え、言葉の使い方に気をつけて手紙を書くことをねらいとする。「ありがとう」の気持ちを伝えたい人に手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。気持ちが伝わるように手紙を書き、読み返す。さらに、書いた手紙を声に出して読み返し、相手の名前と自分の名前、感謝していることが具体的に書けているか、文末表現や文字の間違い、言葉の使い方の誤りがないかを確かめさせる。最後に、気持ちを伝えるためにどのようなことを手紙に書いたかを振り返らせる。
	ことばであそぼう 言葉	2				
	おもい出してかこう 書	10	○むかし話をしょうかいしよう 読 かさこじぞう	12	IV	
	ひらがなをつかおう 2 言葉	1				〔1 年〕 「おもい出してかこう」 経験した順序に沿って簡単な構成を考え、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫することをねらいとして学習する。単元の学習課題を確かめ、学習の見通しを持たせる。初めに、分かりやすく伝えるために、何をどのように書けばよいかを考えさせる。文章を書く際は、話し言葉を入れることをすすめ、「」（かぎ）の正しい使い方ができていることを評価する。文章が仕上がったら、友達や 2 年生に読んでもらう機会を設け、感想やアドバイスをもらえるようにする。最後に事柄の順序に沿って簡単な構成で書けたか、単元の学習を振り返らせる。 「ひらがなをつかおう 2」 拗音・促音・伸ばす音の書き方を復習させる。QR コンテンツの練習問題も活用する。 〔2 年〕 「かさこじぞう」 昔話のおもしろさを見つけて、紹介カードで伝えることをねらいとする。昔話を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読み、物語の中で起こった出来事を確かめる。出来事や人物の行動、表現などに着目して、おもしろいところを見つける。おもしろかったところを紹介カードにまとめていく。カードを読み合って、それぞれが見つけたおもしろさを楽しむ。最後に、どんなおもしろさを見つけたかを振り返らせる。

月	単元名・教材名 1年	配当時数	単元名・教材名 2年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
12	○こえに出してよもう 読 おとうとねずみチロ かん字をつかおう 1 言葉	9 1	かん字をつかおう 5 言葉 人がすることをあらわすことば 言葉	1 3	IV	〔1年〕 「おとうとねずみチロ」 場面の様子に着目して、人物の行動を具体的に想像し、声に出して音読することをねらいとして学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、人物の行動や、物語の中で起こった出来事を確かめさせていく。「チロ」の気持ちを考え、それが伝わるように、とくに「チロ」の言った言葉を意識して物語を音読するようにさせる。音読は、2年生に聞いてもらう。2年生とともに感想を伝え合う活動を行い、単元の学習を振り返ることができるようにする。 「かん字をつかおう 1」 既習漢字を復習させる。QR コンテンツの練習問題も活用する。 〔2年〕 「かん字をつかおう 5」 「かん字をつかおう 1」に同じ。 「人がすることをあらわすことば」 人がすることを表す言葉について理解し、語彙を豊かにすることをねらいとして学習する。教科書64ページの挿絵を見て、「だれが」を使った文を発表させる。主語を使って文を作らせることで人がすることを表す言葉について理解できるようにする。教科書の絵やそれ以外の日常の場面を設定し、人を主語にしたいいろいろな文を作らせる。
	すきなおはなしはなにな 読書	6	本の中の友だち 読書 かん字をつかおう 6 言葉	6 1	III	＊1年「すきなおはなしはなにな」、2年「本の中の友だち」のいずれかを選択して、1・2年いっしょに行う。 〔1年〕 「すきなおはなしはなにな」 読書に親しみ、好きな物語を読んで感じたことを共有することをねらいとして学習する。前単元で物語の感想を伝え合った活動を振り返り、単元の見通しを持たせる。学級の人々に伝えたい好きなお話や人物を決めた後、「しょうかいカード」を書かせる。カードを使って、好きな物語や好きな人物について紹介し合う場を設定する。友達が紹介した本や「一年生の本だな」（教科書 86～87 ページ）で紹介している本などを手がかりに、今後の読書につなげるようにする。 〔2年〕 「本の中の友だち」 好きな登場人物について友達と伝え合うことを通して、多様な本があることを知り、読書に親しむことをねらいとする。これまでに読んだ本を振り返り、紹介し合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持たせる。読んだ本を思い出し、みんなに伝える本を1冊決める。教科書 67 ページの作例を参考に、登場人物を紹介するカードを書いて、読んだ本について伝え合う。友達が紹介した本や「二年生の本だな」（教科書 68～69 ページ）で紹介している本などを手がかりに、今後の読書につなげるようにする。 「かん字をつかおう 6」 「かん字をつかおう 1」に同じ。
1	○しをよもう 読 みみずのたいそう むかしばなしをたのしもう 伝統	2 5	むかしからつたわる言い方 伝統 かん字の読み方とおくりがな 言葉	6 3	IV	〔1年〕 「みみずのたいそう」 詩の内容の大体を捉えて、語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することをねらいとして学習する。様子を想像して読ませて、好きなところや読んだ感想を発表し合う。全員で読んだり友達と交代して読んだりするなど読み方を工夫して、詩を楽しむことができるように支援する。音読は2年生にも聞いてもらい、単元の学習を振り返る。 「むかしばなしをたのしもう」 読み聞かせを聞くなどして、昔話に親しみ、おもしろいと思ったところを共有することをねらいとする。付録教材「花さかじいさん」（教科書 146～153 ページ）などの読み聞かせを行う。教科書 146 ページの QR コンテンツ「かみしばい」の動画も活用する。昔話の独特な語り口調や展開などを楽しむようにして、その後、興味を持った昔話の本を探して、読み聞かせに挑戦してもよい。読んだ昔話の中からおもしろかったものを選んで、好きなところを発表させる。最後に、単元の学習を振り返らせる。 〔2年〕 「むかしからつたわる言い方」 長く親しまれるさまざまな言い回しや言葉遊びに触れることを通して、言葉の豊かさや地域の伝統に親しむことをねらいとする。「十二支」「小の月」について知り、楽しんで音読する。次に、「いろは歌」「いろはかるた」「郷土かるた」について知り、かるた作りを行って楽しむ。 「かん字の読み方とおくりがな」 送り仮名の役割を理解し、漢字を正しく書いたり読んだりすることができるようにすることがねらいである。まず、送り仮名の意味と役割を理解して、教科書の例文の漢字の送り仮名を確かめる。次に、既習の漢字から送り仮名が複数あるものを探して、短文を作る。

月	単元名・教材名 1 年	配当時数	単元名・教材名 2 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
1	おはなしをかこう 書	10	○あなのやくわりを考えよう 読 あなのやくわり	9	Ⅳ	【1年】想像したことから書くことを見つけ、登場する人物について考え、その人物がどんなことをするのかを明確にして、簡単なお話を書くことをねらいとして学習を行う。前の単元の学習から、昔話の始まり方や、登場人物が活躍するための特別な設定があることを想起させる。知っている昔話を出し合い、元にするお話を決める。教科書 95 ページを参考にさせて人物のメモを書く。そして、選んだお話をもとにしてお話を書くようにする。できあがった作品は友達や2年生に読む機会を設ける。単元の学習を振り返ることができるようにする。 【2年】文章の内容と自分の体験とを結び付けて考え、考えたことを文章にまとめることをねらいとして学習を行う。文章の内容をもとに身の回りの穴について考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読んで、それぞれの物に穴が開いている理由や説明の仕方を確かめさせていく。身の回りの穴を想起させ、その役割を考えたり、本や資料で調べさせたりする。そして、考えたことを伝え合う。最後に、知っていることと結び付けてどんなことを考えたかと振り返らせる。
	かたかなのかたち 言葉	3	はんたいのいみのことば 言葉	2	I	【1年】平仮名の字形との違いに気をつけながら、片仮名の言葉を書き、文の中で使うことができることをねらいとしている。平仮名と似ている片仮名を探して書いたり、似ている片仮名を探して文を作ったりする。どのようなことに注意すればよいかを振り返らせて、字形に気をつけて書くことを今後に生かすようにする。 【2年】対義語に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとしている。まず、反対の意味を表す言葉について確かめ、知っている言葉を挙げる。次に、教科書の練習問題に取り組んだり、身の回りから反対の意味を表す言葉を集めて短文を作ったりする。
2	かん字をつかおう2 言葉	1	かん字をつかおう7 言葉	1	I	「かん字をつかおう1」に同じ。
	○ちがいをかながえよう 読 子どもをまもるどうぶつたち	10	同じところ、ちがうところ 情報 くらべてつたえよう 書	3 8	Ⅳ	【1年】 「子どもをまもるどうぶつたち」 二つの動物の説明を比べて読み、似ているところや違うところを見つけて共有することをねらいに学習を行う。単元の学習の見通しを持った後、二つの動物について、書かれていることを読み取らせていく。その際、教科書 103 ページの QR コンテンツから動画を視聴させる機会をもってもよい。二つの動物を比較し、特徴、子どもの身の守り方の違いについて教科書 111 ページのような表にまとめさせていく。表をもとに二つの動物を比べて気づいたことを交流し合わせる。その後、他の動物の知恵や生活について本で調べ、学級のみんな（1・2年生）に紹介する機会を設ける。最後に単元の学習を振り返らせる。 【2年】 「同じところ、ちがうところ」 二つのものを比べて同じところと違うところを見つけ、それらを明確にする方法を知ることねらいとして学習する。教科書 94 ページの漫画から、学習課題を捉え、学習の見通しを持たせる。初めに、比べる物と比べる観点を決めて、二つの物を比べる。そのとき、教科書 95 ページのみかんとレモンについてまとめた表の例を参考にさせる。他のものでも同じように比べて整理させ、表にまとめさせていく。 「くらべてつたえよう」 同じところ、違うところに気をつけて、説明する文章を書くことをねらいとする。まず、「あなのやくわり」や「同じところ、ちがうところ」の学習を想起させ、説明する文章を書くという単元の学習の見通しを持たせる。そして、何を伝えるかを決めさせる。必要なら教科書97ページ下の例から選ばせてもよい。伝える観点到に沿って整理させてから、文章を書くようにさせる。できあがった文章を読み合わせ、分かりやすく書けているところを評価し合うようにする。最後に、物の特徴をはっきりさせて説明するためにどんな工夫をしたかを振り返らせる。
	ことばをあつめよう 言葉	3	声に出してみよう 言葉	3	I	【1年】身近なことを表す語句を集め、語と語との続き方に注意して、文の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気づき、語彙を豊かにすることをねらいとして学習する。教科書の言葉をつなげて文を作ったり、さらにいろいろな言葉を集めて文を作ったりする。副詞を使うことで動きの様子がくわしくなることに気づいた意見があれば評価する。また、文作りで困ったときには、2年生に聞くように助言する。最後に、学習を振り返らせて、いろいろな言葉でつながりを試す姿を評価していく。 【2年】音節(拍)と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いを理解することをねらいとしている。音と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いについて考えるという学習課題を明確に示す。そして、手をたたきながらいくつかの言葉を声に出して言い、音節を確かめることができるようにする。教科書の例を声に出して読み、音の高さの違いやアクセントによる語の意味の違いに気づかせる。
	小学校のことをしょうかいしよう 話聞	7	たからものをしょうかいしよう 話聞	8	Ⅱ	【1年】 「小学校のことをしょうかいしよう」 来年度の新入生に、小学校生活を楽しみにしてもらえるように、話す事柄の順序を考えて話すことをねらいとして学習する。相手意識や目的意識を持たせて、学習の見通しを持つことができるようにする。どんなことをどんな順序で話すとよいかを考える。そして、紹介することを決めて、話す練習をする。話す様子を撮影して練習に生かすとよい。また、2年生から工夫したらよいことなどについてのアドバイスをもらう機会を設ける。グループで聞き合った後、新入生の前で発表する。最後に、単元の学習を振り返らせる。 「かん字をつかおう3」 既習漢字を復習させる。QR コンテンツの練習問題も活用する。 【2年】 「たからものをしょうかいしよう」 話す事柄の構成を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話すことをねらいとして学習する。初めに、自分の宝物について振り返るとともに、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。宝物について話す材料を集め、その中から宝物についてよく伝わるものを選んで、組み立てを考える。みんなの前で話し、聞き手は感想を述べたり質問をしたりする。最後に、聞く人に伝わるようどのように材料選びをしたかを振り返らせる。
	かん字をつかおう3 言葉	1				

月	単元名・教材名 1 年	配当時数	単元名・教材名 2 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
2			ことばあそびを楽しもう 言葉	6		さまざまな言葉遊びを知り、身の回りの言葉を使って楽しむことをねらいとして学習する。まず、身の回りの言葉を使って言葉遊びを楽しむという単元のめあてを伝える。そして、数え歌を音読することや創作することを行わせる。また、食べ物しりとりや三文字しりとりなど教科書で紹介されているさまざまな言葉遊びを知り、身近な言葉を使って楽しむことができるようにする。
	〇すきなところをつたえよう 読 スイミー	11	かんそうをつたえ合おう 読 お手紙	12	I	【1年】人物の行動を具体的に想像して、自分の体験と結び付け、お話の好きなところを見つけることをねらいとして学習する。単元の学習の見通しを持った後、「スイミー」の行動や会話などを手がかりに、場面の様子を想像しながら読むことができるようにする。その後、物語の中で好きなところを見つけさせて、音読練習させる。好きなところを音読し、その理由も話す発表会を設ける。この時、2年生にも聞いてもらう。最後に、単元の学習を振り返らせる。 【2年】物語を読んで自分と比べて感想を持ち、友達と伝え合うことをねらいとして学習を行う。物語を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持たせる。教材文を読み、場面ごとに人物の行動や様子を確かめたち、物語の始めと終わりを比べて変化を捉えたりする。自分が登場人物だったらどんなことを言ったりしたりするかを考え、友達と感想を伝え合う。最後に、自分の感想と友達の感想を比べて、どんなことを思ったかを振り返らせる。並行して「おちば」（教科書 140 ページ）を読むことに取り組んでもよい。
3	かたちのにているかん字 言葉	3	にたいみのことば 言葉	3	I	*学習領域をそろえるために、1 年は教科書の学習順を入れ替える。 【1年】 「かたちのにているかん字」 字形の似た漢字を区別し、正しく読み書きすることができることをねらいとしている。形の似た漢字を正しく使い分けるという学習課題をつかみ、形の似た漢字を使った教科書の例文を注意して読んだり書いたりする。そして、既習漢字の中から形の似ているものを探して、短文を作る。 「かん字をつかおう 4」 既習漢字を復習させる。QR コンテンツの練習問題も活用する。 【2年】 「にたいみのことば」 同義語や類義語について理解することをねらいとして学習を行う。教科書を読み、ほかの似た意味の言葉を集めさせる。教科書の練習問題を見ながら、似ているところと違うところについて考える。 「かん字をつかおう 8」 「かん字をつかおう 1」に同じ。
	かん字をつかおう 4 言葉	1	かん字をつかおう 8 言葉	1		
	一年かんのおもいでブック 書	9	ことばのアルバム 書	7	Ⅲ	* 1 年間に書いた文章をまとめる形式として、「一年かんのおもいでブック」か「ことばのアルバム」のいずれかを選択して、2 学年いっしょに行う。 【1年】いちばん心に残っている出来事について、家の人に伝える文章を書くことをねらいとして学習する。出来事を選んで、これまでに学習したことを思い出して改めて文章を書く。友達と読み合って、よいところを伝え合う。最後に、新しく書いた文章はどんなところがよくなったかを振り返らせる。 【2年】一年間を振り返り、「ことばのアルバム」を作ることをねらいとして学習する。1 年間で最も心に残っている出来事について文章を書き、これまでに書いてきた文章と合わせてアルバムにする。できたものを友達と読み合ってよかったところを伝え合う。最後に、文章のどんなところによさを見つけたかを振り返らせる。 これまでに学習してきたことを踏まえて、それぞれの学年で評価の観点を整理する。

3・4年 複式年間指導計画案			＊…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項 I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い II…同領域異教材だが、一部一斉に行う扱い III…同領域同教材（3・4年同時に行い、「わたり」を行わない扱い） IV…異領域異教材など（I、II、IIIのどれにも当てはまらない扱い）			
月	単元名・教材名 3年	配当時数	単元名・教材名 4年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	あなたのこと、教えて 話聞	2	あなたのこと、教えて 話聞 （3年学習材）	2	III	＊国語学習のスタートとして、3・4年いっしょに3年「あなたのこと、教えて」で学習を行う。 まず、3年「あなたのこと、教えて」の対話例を読み、学習の見通しを持つ。友達のことをよく知るためには、どのような言葉を使って話をつなぐとよいのかを考える。そして、二人一組で相手のことをよく知るための対話をし、気づいたことを話し合う。話し合って知った相手のことをクラスで紹介し合い、互いの好きなものやその理由の共通点や相違点を見つけていく。一回目は「好きな遊び」、二回目は「好きな食べ物」など、テーマを絞って対話をし、ペアを変えていく方法も考えられる。新たな学級編成になっている場合は、3年と4年でペアを組むのもよいだろう。 このように、国語教室開きとして、対話する学習活動を行う。
	○音読を聞き合おう 読 すいせんのラップ	6	○想像したことを音読で表そう 読 こわれた千の楽器	8	I	【3年】場面や登場人物の様子を読んで想像し、音読で表現することをねらいとする。まず、人物に着目して場面を確かめる。そのとき、各場面でのすいせんのラップの音やかえるが目覚めたときの様子を整理していく。次に、各人物の様子に応じて音読の仕方を工夫する。「速く」「大きく」などの注意書き込んで音読台本を作らせるのも一つの方法である。最後は音読したい場面を決めて、音読をする。 【4年】人物の様子や気持ちの変化に注意しながら想像を広げ、想像したことを音読で表すことをねらいとする。教材文を読んで、それぞれの場面の楽器たちの様子や気持ちを想像し、その想像したことを、聞き手に伝わるように音読で表現する。その際に、想像したことを音読で表すために、どのような工夫をしたのかを振り返らせる。 授業の最後には、2学年がいっしょに音読発表会を行い、互いに評価する活動を取り入れてもよい。
	漢字の表す意味 言葉	2				＊学習時間をそろえるために、3年は学習順を入れ替える。 複数の意味を持つ漢字があることを知り、その意味の違いについて理解することをねらいとする。同じ漢字を使った熟語について、その意味を考える。複数の意味を持つ漢字についてのクイズを作り、出し合う活動も考えられる。
	漢字を使おう1 言葉	1	漢字を使おう1 言葉	1	I	上段では、前学年で学習した漢字を使って文を書けることをねらいとしている。できた文はそれぞれの学年で交流するが、両学年で読み合って、下学年が知っている漢字を読んだり、上学年が漢字の使い方を確認したりする活動を取り入れてもよい。以下、「漢字を使おう」については同じ。
	図書館へ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2	III	＊3・4年がともに学習を行う。 図書館の利用については、本が内容によって分類・配架されていることを理解し、実際に図書館のどの本棚にどのような種類の本が置かれているかを確かめたり、ある題材に関係する本をさまざまな棚から探したりすることができるようにする。
	国語じてんの使い方 言葉	2	漢字辞典の使い方 言葉	2	II	＊同領域の学習を行うために、4年の学習順を入れ替える。 【3年】国語辞典の仕組みや使い方を理解することができることをねらいとする。国語辞典を使ってさまざまな語を調べるという学習課題を確かめ、国語辞典の仕組みと引き方を理解する。そして、国語辞典の語の配列を知って、実際に辞典を引きながら、使い方に慣れていく。また、活用のある語の見出し語の形を知り、国語辞典を使って、文脈に合った表記や意味を調べ、国語辞典の必要性を確認する。 【4年】漢字辞典の仕組みと3種類の索引の使い方を知り、漢字の学習に活用することができることをねらいとする。まず、漢字辞典の仕組みを知って漢字を調べるという学習課題を確かめる。そして、漢字辞典の仕組みを知り、部首索引や総画索引、音訓索引を使って漢字を探す方法を理解し、三つの索引の使い分けについて考えることを学習する。 ここでは、4年がサポートしながら3年に国語辞典の使い方を教えるという学習活動を取り入れる。
5	メモを取りながら話を聞こう 話聞	4	話を聞いて質問しよう 話聞	5	II	【3年】話の中心を捉えて、要点を記録しながら聞くことをねらいとする。まず、これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しを持つ。そして、実際に教科書39ページのやりとりの音声（QR「話を聞いてみよう」）を聞き、話の聞き方やメモの取り方について考える。また、40ページの二つのインタビューメモを比較したり、QR「メモの取り方」を参照したりして、メモを取ることで、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えながら聞く方法について学習する。 【4年】分からないことがないか気をつけながら話を聞いてメモを取り、詳しく知るために質問を考えることをねらいとする。まず、教科書34ページのQR「動画」を視聴し、学習の見通しを持つ。35ページのQR「話を聞いてみよう」を聞き、メモを取り、質問を考える。互いの質問を吟味し合うことで、37ページ下「言葉の力」にあるような着眼点を見出せるようにしていく。 この単元でも、4年生がサポートしながら3年生にメモの取り方を教える学習活動を行う。
	○読んで考えたことをつたえ合おう 読 自然のかくし絵	8	○文章の組み立てをとらえよう 読 ヤドカリとイソギンチャク	8	II	【3年】段落ごとに文章の内容を捉えることをねらいとする。「だん落」という用語を理解し、段落ごとの内容を読み取ってまとめ、段落ごとに中心文を見つけて、それぞれの段落の文章の内容を捉えていく。そして、読み取ったことをもとにして、感想を伝え合う。 【4年】段落相互の関係について理解し、文章の構成を捉えることをねらいとする。まず、文章のまとまりを捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教材文を読み、文章構成を捉える。そして、ヤドカリとイソギンチャクの関係について、説明のまとまりに着目しながら読み取り、図や表で表したり、筆者の説明の仕方について考えたりする。
	漢字を使おう2 言葉	1	漢字を使おう2 言葉	1	II	「漢字を使おう1」に同じ。
	全体と中心 情報	2	引用する 情報	2	I	【3年】情報の全体と中心について理解し、全体と中心に気をつけて文や文章を書くことをねらいとする。伝えたいことを相手に伝えやすくするために、中心を明確にして述べるのが大切だということを、教科書54ページの漫画からつかませる。そして、伝えたいことの中心をもとに具体例を並べて説明する文章を練習として書かせていく。 【4年】引用の仕方やルールについて理解して、学んだことを生かしながら適切に引用して文章を書くことをねらいとする。 「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。
	「わたし」の説明文を書こう 書	12	わたしのクラスの「生き物図かん」 書	9	I	【3年】話の中心を明確にし、文章の構成を考えながら書くことをねらいとする。まず、教科書の文例を参考にして単元の学習の見通しを持たせる。伝えたいことを決める際には58ページのウェビングなどを活用する。直前に学習した「情報のとびら」を活用しながら話の中心を決めて、文章の組み立てを考える。書いた文章を読み合い、分かりやすく伝えるためにした自分や友達の工夫を振り返る。 【4年】段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたり、引用の仕方や出典の示し方などを理解して調べたことをまとめたりすることをねらいとする。まず、単元の学習の見通しを持ち、好きな生き物を選び伝えるための材料を集める。段落どうしのまとまりを考えながらリーフレットを作成する。リーフレットを読み合い、自分や友達の工夫を振り返る。 ここでは、4年に直接指導の時間を多く取り、3年は自分たちで説明文を書く活動を行う。

月	単元名・教材名 3年	配当時数	単元名・教材名 4年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
6	○物語をみじかくまとめてしょうかいしよう 読 ワニのおじいさんのたから物	8	○物語が変化する場面をとらえよう 読 走れ	8	I	【3年】登場人物や起こった出来事など、物語の内容を短くあらすじにまとめることができることをねらいとする。まず、物語を読んで場面分けをし、話の大体を確かめる。登場人物の性格と、その根拠となる叙述について考えることで、おにの子の優しさと、それに対するワニの行動を押さえる。最後に、「紹介カード」にあらすじと感想を書いてお互いに読み合う。 【4年】物語の山場で、何がどのように変化したかを考えて読むことをねらいとする。まず、物語の山場を捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教材文を読み、登場人物や山場での変化を捉える。そして、山場での変化とその理由について考えたことを友達と伝え合う。中心人物の変化を捉えるために、「最初はAだったのに、Bによって最後はCになった」という形を与えることで、自分たちで活動を進められるよう促したい。
	漢字を使おう 3 言葉	1	漢字を使おう 3 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
	人物やものの様子を表す言葉 言葉	2	人物の気持ちと行動を表す言葉 言葉	2	I	【3年】人物やものの様子を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで書くことをねらいとする。教科書 78 ページの例を用いて同じものの様子を表す言葉を出し合い、分類したり程度に応じて並び替えたりする。 【4年】人物の気持ちと行動を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで書くことをねらいとする。教科書 80 ページの例を用いて似た気持ちや行動を表す言葉を出し合い、分類したり程度に応じて並び替えたりする。 ここでは、単元の見通しを持ったり言葉を出し合ったりする際に、2 学年がいっしょに活動を行う時間をとってもよい。
	心が動いたことを詩で表そう 書	6	山場のある物語を書こう 書	8	II	【3年】表現を工夫しながら詩を作ることをねらいとする。単元の学習の見通しを持ち、これまでの経験から書きたいことを決める。これまでに書いた文章や日記などを参考にしてもよい。前単元の学習を生かし、伝えたいことに合う言葉を選んで詩を書く。書いた詩を互いに読み合い、感じたことを伝え合う。 【4年】組み立てを工夫して、山場のある物語を書くことをねらいとする。単元の学習の見通しを持ち、物語の初めと終わりを決め、時、場所、人物を話し合う。自分の物語の設定と物語の組み立てを考え、「人物カード」や「組み立てメモ」をもとに、物語を書く。最後に、書いた物語を互いに読み合い、楽しいと思ったところやおもしろいと思ったところを伝え合う。今までの物語の学習で学んだことを振り返って、「最初はAだったが、Bによって、最後はCになる話」を書くということを確認する。そこから、中心人物や物語の中で起こる変化について考えさせる。 ここでは、3 年が書いた詩と 4 年が書いた物語を互いに読み合う活動をとってもよい。
7	ローマ字① 言葉	3	ローマ字の書き方 言葉	2	II	【3年】ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書くことをねらいとする。簡単な単語をローマ字で読み書きするという学習課題を確かめ、ローマ字の表記の原則を理解する。そして、ローマ字を書く際に気をつける点を確認し、読んだり書いたりする。身の回りにあるものや自分の名前などをローマ字で書き表すことで、学習の定着を図る。 【4年】ローマ字による日本語の音の表し方や二通りの書き方を理解し、読んだり書いたりすることをねらいとする。学習課題を明確にし、まず、ローマ字の書き方を確かめる。そして、書き方を確かめながら、身近なものや名前、地名をローマ字で書く。 ここでは、4 年生が 3 年生にローマ字のクイズを出すなど、いっしょに活動を行う時間を取ってもよい。
			漢字を使おう 4 言葉	1		「漢字を使おう 1」に同じ。
	○書き手のくふうを考えよう 読 「給食だより」を読みくらべよう	8	○表し方のくふうを考えよう 読 広告を読みくらべよう	6	I	【3年】二つの「給食だより」を読み比べて、書き手の目的や意図に照らして文章の工夫や効果を読み取することをねらいとする。まず、教科書の二つの文章を読み比べて、どちらの「給食だより」を選ぶか考えるという学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。次に、教科書 94～95 ページの二つの「給食だより」を読み比べ、それぞれの文章における書き手の目的や意図に応じた表現の工夫や効果を考える。最後に、二つの「給食だより」の表現の工夫によって生まれる読み手の感じ方を考えて、理由を明確にノートに書いて「給食だより」を選択する。 【4年】同じ商品の二つの広告を読み比べて目的や意図に応じた表現の工夫や効果の違いを読み取することをねらいとする。まず、広告を読み比べて、表し方の違いを読み取るという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教科書 94～95、96～97 ページの二つの広告に書かれている言葉や写真を読み取り、表現の違いについて理解する。そして、二つの広告に書いてある言葉や写真を比べて、どんな目的や意図でどんな人に向けて作られているものなのかを考えたり、二つの広告全体のレイアウトから受ける印象や、広告の目的や意図による表現の工夫や効果に違いがあることに気づき、その違いをまとめたりする。最後に、身の回りの広告から表現の工夫を見つけて、考えたことを話し合う。 両学年とも、二つのものを比べる際に、同じところや違うところに着目して、ペンで囲んだり、箇条書きで書いたりする。このように、スモールステップで学習を進めていくことで、自分たちで学習を進めていくことができるようにしたい。
			述語の形、だいじょうぶ？ 言葉	2		文に合った述語の形を理解し、主語と述語を適切につなげることをねらいとする。まず、102 ページ「どこがおかしいのかな」の三つの吹き出しの文のおかしなところについて話し合い、述語を直す。次に述語の形に気をつけて文を書き、書いた文を互いに見合う。
	三年生の本だな 読書 一心の養分	2	四年生の本だな 読書 一本は楽しむもの	2	III	同単元同教材で、2 学年がいっしょに学習する。読書の楽しさを知り、自分の興味に応じた本を選んで読むことをねらいとして、読書体験文を読み、教科書で紹介されている本などを手がかりに、読みたい本を探して読む。3 年の教科書 100～103 ページ、4 年の教科書 104～107 ページを活用して、読書の幅を広げたり、読書記録をつけたりすることを促すようにして、読書生活の充実につなげたい。

月	単元名・教材名 3 年	配当時数	単元名・教材名 4 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
9	○詩を読もう 読 紙ひこうき 夕日がせなかをおしてくる	2	○詩を読もう 読 ふしぎ よかったなあ	2	Ⅱ	【3 年】詩の構成や表現に着目して様子を想像し、感想を持って音読することをねらいとする。詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、グループで工夫して詩を音読する。 【4 年】反復などの表現の工夫に着目して詩に描かれた心情を想像し、感想を持って音読することをねらいとする。詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、工夫して詩を音読する。 最後に 3・4 年合同で音読発表会を開き、互いの音読を聞き合い感想を伝え合う。
	案内の手紙を書こう 書	5	お願いやお礼の手紙を書こう 書	4	Ⅱ	【3 年】相手に伝える必要があることを落とさずに書くとともに、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることをねらいとする。まず、だいたいなことを落とさずに案内の手紙を書くという学習課題を確認め、単元の学習の見通しを持つ。次に、案内の手紙に必要な事柄と手紙の構成を考える。そして、下書きをし、清書する。 【4 年】相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、手紙の形式に気を付けて、お願いやお礼の手紙を書くことをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、相手や目的に合わせて手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教科書の手紙例を読み、目的に合わせた内容と、用語を確認する。下書きをして、身の回りの人などに依頼や感謝の手紙を書く。 書いた手紙を、学年をまたいで読み合ってもよい。また、参観日などの学校行事と組み合わせで行うことも考えられる。4 年が発表の練習をしている間に、3 年は保護者に向けて案内の手紙を書き、最後は、3 年と 4 年が参観日に保護者に向けて発表する。また、4 年が案内の手紙を書くことも考えられる。
	慣用句を使おう 伝統	3	ことわざ・故事成語を使おう 伝統	4	Ⅱ	【3 年】慣用句について知り、意味や使い方を調べて、それを使った文を書くことをねらいとする。 【4 年】ことわざや故事成語について意味や使い方を理解して使うことをねらいとする。 それぞれ、国語辞典などを使って慣用句、ことわざや故事成語の意味や用例を調べる。調べたことをまとめて 1 冊の冊子を作り、3 年、4 年が互いに見合うのもよい。
	グループの合い言葉を決めよう 話聞	7	クラスで話し合って決めよう 話聞	6	Ⅱ	【3 年】話し合いの目的を理解して、司会の役割や話し合いの進め方を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることをねらいとしている。まず、自分の考えを持たせた後、話し合いの目的と進め方を確認するようにさせる。そして、グループで話し合わせる。最後に、グループで考えをまとめるためにどのようなことに気を付けて話し合ったかを振り返らせ、これからの学習に生かそうという意識を高めることができるようにする。 【4 年】話し合いの目的を理解して、司会者、提案者、参加者などの役割を果たしながら話し合い、結論をまとめることをねらいとする。まず、役割を考えながら話し合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、議題と目的を確認めて、役割を意識しながら、クラスで話し合う。最後に、それぞれの役割でどんなことに気をつけたかを振り返らせ、これからの学習に生かそうという意識を高めることができるようにする。 ここでは、互いに話し合いの様子を見合い、4 年は 3 年が「司会の進行に沿って互いに意見を述べ合っているか」を評価し、3 年は 4 年が「それぞれの役割を考えながら話し合っているか」を評価する。
	漢字を使おう 4 言葉	1	漢字を使おう 5 言葉	1	Ⅱ	「漢字を使おう 1」に同じ。
	主語とじゅつ語、つながってる？ 言葉	2	文の組み立てと修飾語 言葉	2	I	【3 年】主語と述語の関係を理解し、主語と述語を適切につなげて文を書くことをねらいとする。まず、教科書 128 ページ「どこがおかしいのかな」の例文について話し合う。主語と述語に着目して、文の構成を図示したり文を作ったりする。 【4 年】主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、文の構成を捉えることをねらいとする。まず、主語、述語、修飾語の働きを理解して文の構成を捉えるという学習課題を確認める。次に、修飾語の役割を知り、主語、述語、修飾語からできている文の構成について理解する。そして、主語、述語、修飾語からなる文の語と語の関係を理解して、文の構成を図示したり文を作ったりする。 ここでは、主語や述語、修飾語などに分けたカードを動かして文を作ることで、文の構成要素の関係性を捉えやすくする。
10	○中心人物について考えたことをまとめよう 読 サーカスのライオン	9	○題名の持つ意味について考えよう 読 一つの花	10	I	【3 年】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、物語の中心人物について考えることをねらいとする。単元の学習の見通しを持った後、「サーカスのライオン」の中心人物がどのような人物かを考える。まず、中心人物がライオンの「じんざ」であることを確認し、場面ごとの「じんざ」の行動や様子を読み取る。次に、じんざの様子や気持ちの変化を想像する。最後に、じんざに伝えたいことを文章にまとめる。 【4 年】物語の題名の意味について、物語の中の叙述と結び付けて具体的に考えることをねらいとする。まず、これまでに学習したことや読書経験を振り返って、題名の意味を考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、「一つの花」を読み、人物の気持ちの変化を想像する。そして、「一つの花」という題名の意味について考えたことを友達と伝え合う。ここでは、まず、初めて読んだときに題名の意味を考える。そして、登場人物の気持ちや様子を読み取りながら、「一つの花」という題名とどのような関係があるのかについて考えを深めていく。授業の最後に、初読のときとの考えの変化も含めて、題名の意味についての考えを友達と交流する。
	漢字を使おう 5 言葉	1	漢字を使おう 6 言葉	1	Ⅱ	「漢字を使おう 1」に同じ。
	※ここより教科書下巻を使用する。 ○きょうみを持ったことをしょうかいしよう 読 せつちやくざいの今と昔	8	※ここより教科書下巻を使用する。 ○和室と洋室のよさをしょうかいしよう 読 くらしの中の和と洋	8	I	【3 年】目的を意識して、中心となる語や文を見つけながら文章を読み、書かれていることを要約することをねらいとする。まず、「せつちやくざいの今と昔」を読み、興味を持ったことを考える。伝えたいことの中心が分かるように、教科書 18 ページの「言葉の力」を活用しながら興味を持った内容を要約する。要約した文章を紹介し、感想を伝え合う。最後に、伝えたいことを紹介するためにどんなところに気を付けて文章を要約したかを振り返らせる。 【4 年】何をどのように比べているかを読み取り、比較の仕方を意識して、要約して紹介することをねらいとする。まず、「くらしの中の和と洋」を読み、書かれていることを正確に読み取らせる。そして、文章の中から紹介文に使う部分を選んで要約させる。そして完成した紹介文を読み合い、感想を伝え合う場を設定する。ここでは、教材文を読む際に、和室と洋室のそれぞれのよさを、どのような観点に沿って事例を挙げて説明しているのかを確認させる。そして、和室と洋室にはそれぞれのよさがあることを押さえる。このように、実際に紹介文を書く前に、筆者の説明文の書き方の構成も確認させるようにする。
	分ける 情報	2	観点を立ててくらべる 情報	2	Ⅱ	【3 年】情報を分類する方法を理解し、情報を分かりやすく整理することをねらいとしている。さまざまな物や事柄について、分類し整理していく。さまざまな整理の仕方を確かめ、これからの学習に生かしていく。 【4 年】観点を立てて情報を比較することについて理解し、複雑な情報を分かりやすく整理することをねらいとしている。教科書にある例を、表などを用いてさまざまな観点で比較する。 「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。
	道具のひみつをつたえよう 書	10	「和と洋新聞」を作ろう 書	7	Ⅱ	【3 年】調べたことを整理してレポートを書くことをねらいとしている。既習事項を確認め、教科書 23 ページを見てレポートを書くという単元の見通しを持つ。身の回りの物から調べることを決め、調べたことを整理して、レポートの「組み立てメモ」に残していく。書いたレポートを互いに読み合い、感想を伝え合う。 【4 年】目的に合わせて材料を整理し、「和と洋新聞」を作ることをねらいとしている。既習事項を確認め、単元の学習の見通しを持つ。次に、教科書 23 ページの「新聞の例」を確認し、新聞の用語や記事に取り上げられている観点を確認する。その後、新聞に書くことを決めて材料を集める。書いた新聞を互いに読み合い、感想を伝え合う。 ここでは、3 年が調べ学習を進める間に、4 年の直接指導に入り、新聞についての学習を深める。

月	単元名・教材名 3 年	配当時数	単元名・教材名 4 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
	こそあど言葉 言葉	2	つなが言葉 言葉	2	I	【3 年】「こそあど言葉」について、その働きや種類、指し示すものなどについて理解することをねらいとする。「こそあど言葉」の働きや種類、指し示すものなどについて理解させていく。また、状況に応じた「こそあど言葉」を選んで書いたり話したりする。 【4 年】「つなが言葉」の働きを理解して、文や文章の中で正しく使うことをねらいとしている。接続する語句の働きを知り、練習題を行って理解を深める。文を文節ごとに区切ったカードを用意し、並び替えたり置き換えたりするなど、児童が自分たちでカードを操作して活動できるようにする。
	話したいな、好きな時間 話聞	6	聞いてほしいな、こんな出来事 話聞	6	II	【3 年】話すことの中心を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話すことをねらいとして学習する。「好きな時間」という話題で、話す内容を決めて、材料を書き出す。次に、材料の中から話の中心にすることを選んで組み立てを考える。声の大きさや話す速さに気をつけて、みんなの前で話す。最後に、どんなことに気をつけて話したかを確かめて、単元の学習を振り返る。 【4 年】自分が感じたことが聞き手に伝わるように、工夫して話すことをねらいとする。まず、話題を決め、材料を集める。そして、話の中心が明確になるように話を組み立て、練習をする。声の大きさや話す速さ、抑揚、間の取り方、声の調子などを工夫する。ICT 端末で自分の話す姿を撮影して見返したり、教科書 32 ページの QR コンテンツ「動画」を参考にしたりさせる。 単元の最後には、3・4 年で互いの話を聞き合う時間を設け、感想や評価を伝え合う。
	漢字の読み方 言葉	3	じゅく語の意味 言葉	2	I	【3 年】漢字の音訓や送り仮名について理解することをねらいとする。まず、音訓や送り仮名に注意して漢字を正しく使うという学習課題を確かめる。そして、漢字の音と訓、送り仮名について理解する。ここでは、今まで習った漢字の音読み・訓読みについて調べる活動を行ってもよい。 【4 年】二字熟語の構成について理解することをねらいとしている。まず、二字熟語の構成の類型を理解する。次にさまざまな熟語について、構成とその意味を考える。互いに問題を出し合う活動を行ってもよい。
	漢字の読み方 言葉	3	じゅく語の意味 言葉	2	I	【3 年】漢字の音訓や送り仮名について理解することをねらいとする。まず、音訓や送り仮名に注意して漢字を正しく使うという学習課題を確かめる。そして、漢字の音と訓、送り仮名について理解する。ここでは、今まで習った漢字の音読み・訓読みについて調べる活動を行ってもよい。 【4 年】二字熟語の構成について理解することをねらいとしている。まず、二字熟語の構成の類型を理解する。次にさまざまな熟語について、構成とその意味を考える。互いに問題を出し合う活動を行ってもよい。
11	○想どうしたことをつたえ合おう モチモチの木 読	9	○人物の気持ちの変化を伝え合おう 読 ごんぎつね	13	I	*学習領域をそろえるために、3 年は教科書の学習順を入れ替える。 【3 年】文章を読んで中心人物の性格を想像し、感じたことや考えたことを共有することをねらいとする。まず、学習課題を捉えて学習の見通しを持たせる。次に、登場人物や出来事など、物語の大体を捉える。豆太の性格を想像し、想像したことを友達と伝え合う。「豆太」の性格を想像する際には、場面ごとの「豆太」の行動や会話、様子から読み取らせる。場面ごとに、「○○な豆太」という見出しを考えさせることで、主体的に学習を進めるようにしたい。 【4 年】登場人物の気持ちの変化とその理由を想像して伝え合うことをねらいとする。まず、学習課題を捉えて学習の見通しを持たせる。次に、「ごんぎつね」を読ませて、起こった出来事を確かめていく。人物の気持ちがどのように変化していったか考えさせる。その後、登場人物の気持ちについて想像したことを伝え合う。最後に、どんなことを手がかりにして人物の気持ちの変化とその理由を想像したかを振り返らせる。
	ローマ字② 言葉	2				ローマ字の読み書きを確かめるとともに、コンピューターでの入力に活用できるようにすることをねらいとする。ローマ字の表記について確かめてから、コンピューターで日本語を入力するときにローマ字を活用できることを理解する。ここでは、実際にコンピューターでローマ字を使って文を作るなどの活動を行ってもよい。
	漢字を使おう 6 言葉	1	漢字を使おう 7 言葉	1	II	「漢字を使おう 1」に同じ。
12	人物のせいかくと行動を表す言葉 言葉 (4 年学習材)	2	人物のせいかくと行動を表す言葉 言葉	2	III	【3 年】人物の気持ちを表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで文を書くことをねらいとする。教科書 58 ページを読んで学習の見通しを持たせて、人物の気持ちを表す言葉について理解させていく。気持ちを表す言葉を集めたり、それらを使って文を書いたりさせる。 【4 年】人物の性格と行動を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで文を書くことをねらいとする。教科書 60 ページを読んで学習の見通しを持たせて、人物の性格を表す言葉について理解させていく。人物の性格と行動を表す言葉を集めたり、それらを使って文を書いたりさせる。
	いろいろなつたえ方 書	4	言葉の意味と使い方 言葉	4	II	【3 年】いろいろな伝達方法について知り、調べたことや考えたことを書くことをねらいとする。手話と点字、ピクトグラム、記号などによる伝達方法を理解する。それぞれ、どんな人に何を伝えることができるのかを、教科書を読んで話し合う。考えたことを文に書き、発表する。総合的な学習の時間との関連で実施することも可能である。 【4 年】複数の意味を持つ言葉があることを理解し、意味を考えて文の中で使うことをねらいとする。複数の意味を持つ言葉について理解し、文中での意味を考えたり、複数の意味を国語辞典で調べたりするなどして、言葉の意味への理解を深める。これらの意味のつながりや広がりに着目して言葉への興味を高める。
	本から発見したことをつたえ合おう 読書	4	ブックトークをしよう 読書	4	III	*学習領域をそろえるために、4 年は教科書の学習順を入れ替える。 【3 年】本の紹介活動を通して、読書によって必要な知識や情報が得られることを知り、幅広く読書に親しむことをねらいとする。これまでの読書経験を振り返らせて、単元の学習の見通しを持たせた後、今までに読んだ本を振り返り、紹介したいノンフィクションや図鑑などを選ばせる。そして、紹介カードを書かせる。その後、カードをもとに本を紹介し合う場を設定する。友達が紹介した本や「三年生の本だな」(教科書 66～67 ページ)で紹介している本などをきっかけに、今後の読書につなげるようにする。 【4 年】ブックトークを通して、読書によって必要な知識や情報が得られることを知り、幅広く読書に親しむことをねらいとする。ブックークについて説明をして、学習の見通しを持たせる。今までに読んだ本を振り返らせ、テーマとともに紹介したい本を集めて選ぶ。そして、発表の準備をして、ブックトークを行う。友達が紹介した本や教科書 74 ページで紹介している本などをきっかけに、今後の読書につなげるようにする。
	漢字を使おう 7 言葉	1	漢字を使おう 8 言葉	1	II	*学習領域をそろえるために、4 年は教科書の学習順を入れ替える。 「漢字を使おう 1」に同じ。
	俳句に親しもう 伝統	3	百人一首に親しもう 伝統	2	II	【3 年】易しい文語調の俳句の音読や暗唱などをして、言葉の響きやリズムに親しむことをねらいとする。まず、五・七・五の音数や季語など、俳句の決まりについて知る。次に、教科書 70～74 ページの俳句を音読したり、好きな俳句を選んで暗唱したり短冊に書いたりして親しむ。教科書 70 ページの QR「俳句の音声」も活用していく。 【4 年】短歌を音読して言葉の響きやリズムを感じ取ったりかるた遊びをしたりしながら、伝統的な文化に親しむことをねらいとする。まず、五・七・五・七・七の音数など、短歌の決まりや百人一首についてについて知る。次に、教科書 66～69 ページの短歌を音読して、言葉の響きやリズムを楽しむ。グループで百人一首のかるた遊びを行う。 4 年が 3 年と同じように、好きな俳句を選んでよい、また、3 年が 4 年といっしょにかるた遊びを行ってもよい。
1	○生き物についての考えを深めよう 読 カミツキガメは悪者か	9	○日本の数え方について考えよう 読 数え方を生み出そう	10	I	【3 年】筆者の考えとそれを支える理由や事例を読み、生き物について考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、学習の見通しを持たせて、教材文を読ませ、書かれていることを確かめる。そのとき、筆者の考えとその理由や事例を捉えることを意識させる。その後、読んだことをもとに、生き物について考えたことを伝え合う場を設定する。最後に、筆者の考えとそれを支える理由や事例からどのように自分の考えを深めたかを振り返らせる。 【4 年】日本語の数え方に対する筆者の考えを読み取り、自分の考えを広げることがをねらいとする。まず、学習の見通しを持たせて、教材文を読ませ、筆者がどのように自分の考えを述べているかを確かめる。次に、筆者の述べていることに対して、思ったことや考えたことを話し合うとともに、日本語の数え方についての自分の考えを書く。筆者の考えを参考にして、新しい数え方を考えて発表し合う。最後に、筆者の考えを受けてどのように自分の考えを広げていったかを振り返らせる。

月	単元名・教材名 3年	配当時数	単元名・教材名 4年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
1	漢字を使おう 8 言葉	1	漢字を使おう 9 言葉	1	Ⅱ	「漢字を使おう 1」に同じ。
	考えと理由 情報	2	理由をぎんみする 情報	2	Ⅱ	【3年】考えと理由について理解し、それを生かして文章を書くことをねらいとする。教科書 82 ページの漫画から学習の見通しを持たせ、考えを伝えるには理由が大切であることを理解させる。課題に取り組ませ、考えと理由のつながりが分かるように文章を書くことができるようにする。 【4年】考えの理由を吟味することについて理解し、それを生かして文章を書くことをねらいとする。教科書 92 ページの漫画から学習の見通しを持たせ、理由を吟味する方法について理解させる。課題に取り組ませ、読み手に納得してもらえるように文章を書くことができるようにする。 「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。書いたものを 3・4 年で読み合う時間を設けてもよい。
	クラスの思い出作りのために 書	8	自分なら、どちらを選ぶか 書	9	Ⅱ	【3年】自分の考えとその理由を明らかにして文章を書くことをねらいとする。まず、思い出作りにについての自分の考えをまとめさせる。次に、ペアやグループで話し合わせて考えを深める。その際、理由とともに話すようにさせる。それから、組み立てを考えて文章を書く。文章を読み合う場を設ける。最後に、自分の考えを伝えるためにどんな工夫をしたかを振り返らせる。 【4年】理由を吟味しながら自分の考えを書くことをねらいとする。まず、二種類のちらしの特徴を書き出し、話し合って考えを深める。次に、理由を吟味しながら書くことを整理する。デジタルノートを活用してもよい。組み立てメモを活用しながら、文章全体の組み立てを考える。そして、メモをもとに文章を書き、書いた文章を読み合う。最後に、自分の考えを伝えるためにどんな工夫をしたかを振り返らせる。 書いた文章を 3・4 年で読み合う時間を設けてもよい。
	道具のうつりかわりを説明しよう 話聞	10	調べたことをほうこくしよう 話聞	9	Ⅱ	【3年】話の組み立てや話し方を工夫して、身の回りの道具の変遷について調べたことを説明することをねらいとする。説明する道具を決めて、本やインターネットなどを使って調べさせる。説明することを整理して、組み立てを考えさせていく。説明の練習をして、みんなの前で説明する。教科書 104 ページの QR「動画」を見て参考にしながら練習してもよい。最後に、調べたことを分かりやすく報告するためにどのようなことに気をつけたかを振り返らせる。 【4年】身の回りのことについてグループでアンケートを行い、調べたことを分かりやすく報告することをねらいとする。調べることを決めて、アンケートを作って調べさせる。次に、アンケートの結果をまとめて、組み立てを考え、話す練習をする。教科書 105 ページの QR「動画」を参考にさせたり、ICT 端末で話す姿を撮影させたりして、練習に生かすようにしてもよい。そして、調べたことをみんなの前で報告する。最後に、調べたことを分かりやすく報告するためにどのようなことに気をつけたかを振り返らせる。 3・4 年で、説明したり報告したりする活動を通して交流する。
2	漢字を使おう 9 言葉	1	漢字を使おう 10 言葉	1	Ⅱ	「漢字を使おう 1」に同じ。
	くわしく表す言葉 言葉	2	同じ読み方の漢字 言葉	2	I	【3年】詳しく表す言葉を知り、文中の修飾・被修飾の関係をとらえることをねらいとする。詳しく表す言葉の働きについて理解させる。詳しく表す言葉と、それが係る言葉との関係を理解し、文の中で詳しく表す言葉を使わせる。主語・述語・修飾語に分けたカードを動かしながら、文を作ったり、詳しく表す言葉集めを行ったりする。 【4年】同じ読み方の漢字について理解して、文や文章の中で使い分けることをねらいとする。同じ音や同じ訓の漢字と、それぞれの意味について理解できるようにする。そして、さまざまな同じ読み方の漢字を比べて、文の中で使い分けさせる。
	○物語のしかけのおもしろさをつたえ合おう 読 ゆうすげ村の小さな旅館 ーウサギのダイコン	9	○考えたことを文章にまとめよう 読 世界一美しいぼくの村	12	I	【3年】物語の仕掛けを見つけて、物語で起こった出来事とのつながりを読み取ることをねらいとする。まず、物語の内容の大体を捉え、物語の仕掛けを探す。起こった出来事を読み取ることを通して、「美月がウサギであるという証拠（仕掛け）を見つけよう」と児童に投げかけることで、意欲を持って学習に取り組むことができるよう促したい。また、自分たちで学習を進めるにあたって、○×クイズなどを行いながら仕掛けを探す活動を行ってもよい。 【4年】物語の結末について感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことがねらいである。まず、初めて読んだ感想を書かせる。その後、家族や「バグマンの村」に対する「ヤモ」の思いを考えさせていく。そして、物語の終わり方について、考えたことを伝え合う。最後に、物語の終わり方についてどのようなことを感じたり考えたりしたかを振り返らせる。並行して「世界一美しい村へ帰る」（教科書 134 ページ）を読むことに取り組んでもよい。
3	漢字の組み立てと意味 言葉	2				*学習領域をそろえるため、3年は教科書の学習順を入れ替える。 漢字が「へん」や「つくり」などいくつかの部分から構成されていることや部首について理解することをねらいとする。「へん」や「つくり」などの部分の名称と代表的な部首の種類について知り、同じ部首の漢字から意味の共通性を理解する。
	漢字を使おう 10 言葉	1	漢字を使おう 11 言葉	1	Ⅱ	【3年】「漢字を使おう 1」に同じ。 【4年】都道府県名の漢字を学習したうえで、それらを使って文を書く。
	わたしのベストブック 書	6	十年後のわたしへ 書	7	Ⅱ	【3年】1 年間に書いた文章を友達と読み合い、自分の文章のよいところを見つけることをねらいとする。まず、1 年間で書いた文章を読み返して、よく書けていると思うものを選ぶ。選んだ文章を友達と読み合い、友達の文章に賞状を贈って、互いの文章のよいところを伝え合う。「わたしのベストブック」にまとめる。最後に、自分や友達の文章にはどんな工夫があったかを振り返らせる。 【4年】1 年間に書いた文章を読み返し、「十年後のわたし」に伝えたいことを手紙に書く活動を通して、自分の文章のよいところを確かめることをねらいとする。まず、1 年間で書いた文章を読み返し、1 年間で振り返る。そして、「十年後のわたし」に手紙を書く。手紙を書く際には、1 年間に学んだ「言葉の力」を生かして書くようにする。最後に自分の文章のよいところを、どう生かしていきたいかを振り返らせる。 単元の最後には、互いに書いた文章を読み合い、1 年間の学習の成果を振り返って、互いの成長を認め合う場を設けたい。

5・6年 複式年間指導計画案			＊…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項 I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い II…同領域異教材だが、一部一斉に行う扱い III…同領域同教材（5・6年同時に行い、「わたり」を行わない扱い） IV…異領域異教材など（I、II、IIIのどれにも当てはまらない扱い）			
月	単元名・教材名 5年	配当時数	単元名・教材名 6年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	集めよう、よいところ 話聞	2	たずね合って考えよう 話聞	2	III	*国語学習のスタートとして、わたりを行わず、2学年がいっしょに学習する。 第1時は、5年「集めよう、よいところ」の教科書の例を参考に話の内容が明確になるように、互いに考えを伝え合うための対話の仕方を学習する。話し手はまとめて話したり、具体例を挙げて説明したりするなどして、分かりやすく伝えること、聞き手は理由を尋ねたり、共通点を見つけたりすることで話し合うことの良さを見つけられるようにする。第2時は、会話がうまくいかなかった場合の原因やよりよい対話の在り方について、6年の「たずね合って考えよう」で学習する。
	○人物の心情を音読で伝えよう 読 おにぎり石の伝説	5	○朗読で表現しよう 読 さなぎたちの教室	5	II	【5年】 登場人物の心情が変化していく様子を読み取り、音読で表現することをねらいとする。登場人物の心情の変化を音読で表現するにはどのようなことに気をつければよいかを課題として取り組んでいく。 【6年】 中心人物の心情の変化を確かめながら読み、捉えたことが聞き手に伝わるように朗読することをねらいとする。捉えたことが聞き手に伝わるように朗読するにはどのようなことに気をつければよいかを課題として取り組んでいく。 最後に互いの音読・朗読を聞き合う場を設け、一人一人の読みの工夫を評価し合う。
	漢字を使おう1 言葉	1	漢字を使おう1 言葉	1	I	上段では、前学年で学習した漢字を使って文を書けることをねらいとしている。できた文はそれぞれの学年でこう流するが、両学年で読み合って、下学年が知っている漢字を読んだり、上学年が漢字の使い方を確認したりする活動を取り入れてもよい。以下、「漢字を使おう」については同じ。
	図書館へ行こう 読書	2	社会教育施設へ行こう 読書	2	II	【5年】 目的に応じた本や資料の選び方を知り、単元の終わりには「例えば○○のときには、△△の本を見るとよい。」という発表を6年に向けて行う。 【6年】 社会教育施設の特徴を理解し、単元の終わりには、県内の施設を例に挙げて、5年に向けて発表するという学習活動を行う。
	知りたいことを聞き出そう 話聞	4	意見を聞いて考えよう 話聞	4	II	【5年】 自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることをねらいとする。 【6年】 他の人の意見と自分の意見を比較して、自分の考えをまとめることをねらいとする。 まず、5・6年いっしょに、教科書のインタビュー内容を知り、インタビューをするときに気をつけることを確かめる。次に学年ごとに、話を聞く意図や目的を確かめ、インタビューで聞きたいことを考え、整理する。整理ができれば、5年は6年に、6年は5、6年にインタビューを行う。また学年に分かれて、インタビューで知ったことをもとに、自分の考えをまとめる。最後に、5年は、話を聞き出すためにどのようなことに気をつけて聞いたかを振り返らせ、6年は、他の人の意見を聞き、それを自分の考えにどう生かしたかを振り返らせる。
5	敬語 言葉	2	場面に応じた言葉づかい 言葉	2	III	*学習領域をそろえるために、6年は教科書の学習順を入れ替える。 第1時は、敬語を理解することを中心とした学習を行う。6年は既習であるが、敬語の理解、特に尊敬語と謙譲語の区別は難しく、再度の学習をする機会を設けることは6年にとっても有効である。まず、5年の教科書を読んで、敬語の種類や使い方を理解する。そして、敬語に書き換える練習題に取り組んだり、敬語を使った会話文を作ったりして、敬語の使い方について理解を深める。 第2時は、6年の教科書を読んで相手や場面に応じた言葉遣いを理解し、適した言葉を選んで使うことを中心とした学習を行う。教科書124ページの例を読み、場面に応じてどのような言い方をすればよいか考えながら言葉を使い分け、そのよさを確かめる。それから、相手や場面に応じた言葉遣いについて理解したことを確かめる。 5・6年でいっしょに学習することで、敬語の知識を得るにとどまらず、実際に用いて敬語への理解を深めるようにする。
	○要旨をまとめ、自分の考えを伝えよう 読 インターネットは冒険だ	5	○筆者の論の進め方を確かめよう 読 イースター島にはなぜ森林がないのか	6	I	【5年】 文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、筆者の考えに対する自分の意見を伝え合うことをねらいとする。まず、「要旨」の意味について、既習事項「要点」「要約」と比べながら学ぶ。次に、「要旨を把握して、筆者の考えに対する自分の意見をもつ」という学習課題を知り、文章に書かれている内容について、叙述をもとに構成を捉え、要旨をまとめていく。インターネットの利用については、個人差があり、聞きなれない言葉もあるので、言葉の意味を確認しながら読む。そして、結論部分を中心に文章の要旨をまとめ、自分が考えたことを伝え合う。 【6年】 文章の構成や事例を捉え、筆者の論の進め方についての考えをまとめることをねらいとする。まず、筆者の論の進め方について考えるという学習課題を知り、「イースター島にはなぜ森林がないのか」を読み、教科書56ページを参考に構成と要旨を押さえる。そして、イースター島から森林が失われた過程とその原因を読み取りながら、筆者の論の進め方について考えたうえで、筆者の論の進め方に対する自分の考えを話し合い、文章にまとめるようにする。児童の実態に応じて、序論・本論・結論のまとまりを教師から示したり、要旨の一部を示したりするなどの配慮をする。
	漢字を使おう2 言葉	1	漢字を使おう2 言葉	1	I	「漢字を使おう1」に同じ。
	事実と考え 情報	1	原因と結果 情報	1	I	【5年】 教科書56～57ページを読んで「事実と考え」の違いについて確認する。その後、教師が準備した話題について事実と考えを弁別する活動を行う。最後に、自分のクラスについて事実のみで文章を書く活動を行う。 【6年】 教科書60～61ページを読んで「原因と結果」の結び付きについて学習する。その後、身の回りに起こった出来事について、原因と結果が分かるように文章で説明する活動を行う。最後に、書いた文章の原因と結果の結びつきをグループで確認する。
	地域のみりよくを伝えよう 書	7	いざというときのために 書	5	II	*時間をそろえるために、6年は教科書の学習順を入れ替える。 【5年】 文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書くことをねらいとする。まず「タウン誌」とは何かを知る。教師は、あらかじめいくつかの地域のタウン誌を準備しておく。そして、「タウン誌を作って、地域の魅力を伝えよう」という学習のゴールを立てる。その後、教科書例を参考にしながら、自分のタウン誌を作成していく。その際、一時間ごとに、着目する点を確認し、自分のタウン誌に生かせるようにする。既習である「事実」と「考え」を区別して書くことや、「中」のまとまりを工夫するようにする。 【6年】 論の進め方を工夫して、防災についての提案書を作ることをねらいとする。まず身の回りに起こりうる自然災害について考える。次に、その対策について知っているか、対策ができているか、現状を確認する。そして、「防災の提案書を書いて防災を啓発しよう」という学習のゴールを立てる。その後、教科書例を参考にしながら、自分の提案書を作成していく。提案書を送る相手は、個人で決める。 単元の終わりに5年、6年で交流する場面を持つ。なお、発表資料はコピーしておき、翌年以降のモデルとして活用できるようにしておくとうい。
6			三字以上の熟語の構成 言葉	2		まず、教科書44ページを読んで漢字三字の構成についてり、練習問題に取り組む。次に、教科書45ページを読んでいるような構成について知り、練習問題に取り組む。
	漢字の成り立ち 言葉	2	文と文とのつながり 言葉	2	I	【5年】 漢字の成り立ちを理解することをねらいとする。教科書を参考に、漢字の四種類の成り立ちを、象形文字と指事文字との区別、会意文字と形声文字との区別に注意しながら理解する。その際、教科書の練習問題に取り組んだり、他の漢字について漢字辞典を利用して調べたりする。 【6年】 指し示す言葉や文末表現、主語などに注目し、さまざまな文と文とのつながりを理解することをねらいとする。教科書68ページの①②の文を読んで、文が他の言葉を修飾することを確認する。同様に、教科書例を参考に、指し示す言葉や文末表現に着目してつながりをとらえるようにする。教科書の文章や自分の書いた文章を読んで、学習したことを確かめる。

月	単元名・教材名 5年	配当時数	単元名・教材名 6年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
6	いにしえの言葉に親しもう 伝統	3	漢文に親しもう 伝統	3	Ⅱ	【5年】古文や近代以降の文語調の文章の言葉の響きやリズムに親しみ、音読したり暗唱したりすることをねらいとする。古文を読んで気づいたことや感じたことについて話し合ったり、自分の考えを書いたりして、自分の考えを広げる。まず、学習課題を確かめた後、「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」をそれぞれ音読し、言葉の響きを味わう。それから、四つの古文から好きなものを一つ選び、気づいたことや感じたことについて話し合う。 【6年】漢文を音読し、言葉の響きやリズムなどに親しむことをねらいとする。まず、学習課題を確かめた後、教科書に取り上げられている漢文を音読し、漢文について知る。それから、好きな漢文の一つを選び、 選んだ理由や気に入っているところを文章にまとめる。 単元の最後には、5年が古文を6年に、6年が漢文を5年に音読するといった活動を行い、互いに交流する。そして、6年は5年へ、昨年度の学習を思い出しながら「リズムよく音読できるか」を評価し、5年は初めて聞いた漢文の音読の感想を6年に伝えるようにする。そうして、古文、漢文への理解が深まるようにする。
	○物語の組み立てについて考えよう 読 世界でいちばんやかましい音	5	○人物どうしの関係について話し合おう 読 風切るつばさ	5	Ⅰ	【5年】物語の構成を捉えて物語の全体像を具体的に想像し、構成や山場の変化について考えることをねらいとする。まず、学習課題を明確にして「世界でいちばんやかましい音」を読み、物語の構成を捉える。それから、山場で起こる変化について考え、考えたことを友達と伝え合う。物語の山場でどのような変化が起こったと考えたかを中心にまとめ、中心人物である「王子様」だけでなく、ガヤガヤの町の変化にも目を向ける。 【6年】人物どうしの関係を手がかりに、人物の心情を考えながら読むことをねらいとする。学習課題を明確にして「風切るつばさ」を読み、物語の出来事を押さえ、人物どうしの関係を捉える。そのうえで、人物どうしの関係を踏まえながら、「クルル」と「カララ」の心情とその変化について考える。人物の心情の変化を「クルル」と「カララ」の関係から押さえ、自分の考えや友達のことをノートに整理する。 物語を読む授業においては、間接指導の場に、出来事をカードにして並べ替えることや、話し合った際の友達のことをノートに書くなどの活動を取り入れることにより、学習を成立させる。
7	漢字を使おう 3 言葉	1	漢字を使おう 3 言葉	1	Ⅰ	「漢字を使おう 1」に同じ。
	思考に関わる言葉 言葉	1	文字の移り変わり 言葉	1	Ⅰ	*学習領域をそえるために、6年の教科書の学習順を入れ替える。 【5年】教科書 90 ページ上段の①～③の文を比べ、判断の度合いによる違いを確かめる。次に④～⑥の文を比べ、どのような違いがあるか考える。そして、練習問題を解き理解を深める。最後に、〇〇の時はどのような言葉を使えばよいか、条件をつけて文作りを行うようにする。 【6年】教科書 74～75 ページを読み、文字の始まりから現在までの移り変わりをノートにまとめる。平仮名と片仮名の成り立ちでは、教師があらかじめ準備した「成り立ちクイズ」を考えたり、漢字だけで書かれた文の読み方を考えたりする等の学習活動も考えられる。最後に平仮名だけで書かれた文を漢字仮名交じり文に直し、漢字仮名交じり文の良さについて考える。
	○書き手の意図を考えよう 読 新聞記事を読み比べよう	5	○インターネットでの議論から考えよう 読 インターネットの投稿を読み比べよう	5	Ⅰ	【5年】新聞記事を題材に、文章全体の構成を捉えたり文章と図表などを関係づけたりして要旨を把握して、書き手の意図について考えることをねらいとする。まず、教科書 94～97 ページを読み、新聞の特徴や役割、記事の構成と写真の役割を理解する。そのうえで、98・99 ページの記事Aと記事Bを読み比べ、共通点や相違点をもとに書き手の意図を考える。このとき、「記事Aと記事Bの写真を入れ替えることができるか。」といった発問をすることで、写真と書き手の意図との関係に気づかせる。その後、各自で新聞を持ち寄り、記事と写真に合った見出しを書く活動を行う。 【6年】インターネットに投稿された意見を題材に、複数の文章を読み比べて、それぞれの説得の工夫を読み取ることをねらいとする。まず、投稿 1～13 を読み比べて、説得の工夫や効果について考える。そこでは、教科書 99 ページにあるような説得の工夫があることを読み取る。そのうえで、投稿 1～13 の中から、自分が納得できる意見や主張を選択し、自分の意見を文章にまとめるようにする。インターネットの議論は情報モラルの問題とも関わり、発言者の顔が見えないことによる配慮が必要であることも理解させたい。投稿 1～13 の中に、書き手として気をつけるべきことがなかったかと問うことも必要である。 5、6年ともに、単元の振り返りを記述し、クラス全体で交流することで、それぞれの学びを共有し、今後の生活に生かせるようにしたい。
	五年生の本だな 読書 一すてきなこと	1	六年生の本だな 読書 一本がいざなう、もう一つの世界	1	Ⅲ	*同領域同教材で2学年がいっしょに学習する。 教科書の「〇年生の本だな」を見たり、読書記録を振り返ったりすることで、自分の読書傾向を知る。そして、読んだことのある本やおすすめの本を交流するなかで、いろいろなジャンルの本に親しめるようにしたい。
9	○詩を読もう 読 未知へ	1	○詩を読もう 読 いま始まる新しいいま	1	Ⅲ	*2学年がいっしょに学習する。 詩を読んで、自分が感じたことや考えたことを友達と伝え合い、自分の考えを深めることをねらいとする。まずは、同学年で感想を伝え合い、考えを深めるようにする。そして感じたことが伝わるように、比喩や反復に気をつけて音読する。5年と6年で音読を聞き合い、詩を聞いた感想を伝えるようにする。
	心の動きを短歌で表そう 書	4	心の動きを俳句で表そう 書	3	Ⅱ	共通するねらいは、生活経験から題材を選び、全体の構成や書き表し方などに着目して、表現を整えて書くことである。 小学生の作品例（5年教科書 115 ページ、6年教科書 113 ページ）を読み、短歌・俳句の形式で、生活の中での発見や感動を表現するという学習課題をつかむ。短歌と俳句の違いを確認したうえで、短歌形式・俳句形式のどちらで表現するかを選ばせる。もちろん両方でもよい。必要に応じて、連想メモを使って題材を集める方法を試す。教科書掲載の作品例のほかに、各種コンクール等の入選作品を参考にするとよい。そして、できた作品を読み合い、感想を伝え合ったり、表現のよさや工夫を見つけて共有し合ったりする。
	問題を解決するために話し合おう 話聞	6	話し合って考えを深めよう 話聞	6	Ⅱ	【5年】意図を明確にしながらか計画的に話し合って、身の回りにある問題の解決方法を見つけることをねらいとする。まず、教師が作成した「話し合いがうまく進んでいない場合のモデル」の文章を読む。どこがよくなかったのかを確認し、教科書 118 ページを読んで、「意図を明確にしながらか計画的に話し合う」という学習課題を確認する。そして、教科書例を参考に、考えをまとめていくための方法を学んでいく 【6年】お互いの考えを深めるために、立場を明確にしながらか話し合うことをねらいとする。6年は教科書 116 ページを読み、「立場を明確にしながらか話し合う」という学習課題を確認する。話し合いの中での立場による役割や、教科書 120 ページの例のように整理するよさを学ぶ。 5年も6年も毎時間テーマを変えてグループで話し合うようにする。話し合うグループとそれを観察するグループに分かれ、観察するグループには意図を明確にしているか、立場による役割を果たせているかを評価させる。単元の終わりには、クラス全体で一つのテーマについて話し合い、学んだことを実践し、学習を振り返るようにする。
	漢字を使おう 4 言葉	1	漢字を使おう 4 言葉	1	Ⅰ	「漢字を使おう 1」に同じ。
	○物語のおもしろさを解説しよう 読 注文の多い料理店	6	○表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう 読 模型のまち	5	Ⅰ	【5年】構成や表現の工夫を見つけ、物語のおもしろさを解説する文章を書くことをねらいとする。まず、表現の工夫を見つけて物語のおもしろさを解説する文章を書くという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。教材文を読み、物語の構成を確かめて、物語をおもしろくしている表現の工夫を探す。そして、おもしろさの秘密を解説する文章を書き、友達と読み合う。自分が解説したいテーマを複数選択し、解説文にまとめる。 【6年】情景や心情を描いた表現に着目して読み、物語を読んで考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、表現の効果を捉えるという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。「模型のまち」を読み、印象に残った表現を共有する。物語の中で重要な役割を持つ「ビー玉」「模型のまち」に関する表現に着目し、その効果を考えるようにする。そして、それらの表現と中心人物の心情の変化を関係づけるようにする。最後に、再びこの物語の中で印象に残った表現を選び、なぜ心に残ったのか、どのように感じたのかを感想として書き、伝え合うようにする。

月	単元名・教材名 5 年	配当時数	単元名・教材名 6 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
10	漢字を使おう 5 言葉	1	漢字を使おう 5 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
	どうやって文をつなげればいいのか？ 言葉	1	つなぐ言葉の使い分け 言葉	1	I	【5年】教科書 146 ページ「どこが分かりにくいのかな」の例文を読み、分かりにくい原因を考える。そして、文の内容を整理し、前後の文の関係を考えて適切な言葉を考える。適切な言葉でつないだ文と初めの文とを比較し、関係を考えてつなぐよさを実感する。最後に、いろいろなつなぐ言葉を使って、文や文章を書き、読み合う。 【6年】教科書 88 ページ上段の例文を読み、「……」に続く文を考える。そして、つなぐ言葉の働きを確認した後、①～⑥の文を読んでつなぐ言葉の種類を知る。最後に、いろいろなつなぐ言葉を使って、文や文章を書き、読み合う。
	○「文化を受けつぐ」ことについて考えよう 読 和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる	6	○プラスチックごみの問題について考えよう 読 「永遠のごみ」プラスチック	8	I	【5年】筆者の言う「文化を受けつぐ」ということについて、ほかの情報を重ね合わせ、自分の考えをまとめて交流することをねらいとする。まず、必要な情報を見つたり、資料を使って説明したりするという学習課題を知り、学習の見通しを持たせる。「和の文化を受けつぐ」の構成を捉えさせ、筆者の考えを確かめるようにする。そして、筆者の言う「文化を受けつぐ」ということについて、インタビュー記事と重ね合わせて考えさせる。書いたものを読み合わせて、感想を伝え合うようにする。最後に、文章を重ね合わせて読むときに、どのような点に着目してそれぞれの文章のつながりを考えたかを振り返らせる。 【6年】「永遠のゴミ『プラスチック』」と二つの資料の内容を関係づけ、プラスチックごみの問題に対する考えを発表することをねらいとする。まず、複数の資料を関係づけて読んで、プラスチックごみの問題に対する自分の考えを発表するという学習課題を知り、学習の見通しを持たせる。『「永遠のごみ」プラスチック』の構成を捉えて要旨を確かめ、プラスチックの問題について考える。その際、筆者の文章と資料を関係づけて考え、プラスチックの問題や解決に向けての取り組みについて自分の考えを持てるようにする。筆者の主張や、視点の異なる資料をもとに、自分の考えをまとめて発表する。それぞれの情報のどのような点に着目して自分の考えを深めたかを振り返らせる。
	文章と図表 情報	1	情報の信頼性と著作権 情報	2	I	【5年】教科書 161 ページの漫画を手がかりにして、学習課題を捉え、学習の見通しを持たせる。複雑な情報の整理の仕方や図表の効果的な活用法について理解し、文章の情報を効果的に表現する練習を行う。 【6年】教科書 167 ページの漫画を手がかりにして、学習課題を捉え、学習の見通しを持たせる。近年問題となっているフェイクニュースを扱ったり、著作権が守られていない事例を挙げたりすることで、これらの問題を身近に感じられるようにする。
	和の文化を発信しよう 書	5	発信しよう、私たちのSDG s 書	5	I	【5年】資料を効果的に活用しながら、和の文化のポスターを作ることをねらいとする。前単元「文章と図表」で学習した情報整理の仕方や図表の活用を生かして取り組んでいく。まず、テーマを決めて情報を集めさせる。次に、割り付けを考えさせ、ポスターを作らせていく。ここで、目的に応じてどのような情報を集め、どのように関係づけて効果的に示すのかを工夫させる。その工夫についてポスターの解説文に書いて、ポスターとともに読み合う。最後に、調べた情報を活用するとき、どんなことを工夫したかを振り返らせる。 【6年】目的に応じて情報を集め、パンフレットで情報を発信することをねらいとする。前単元「情報の信頼性と著作権」で学習したことを生かして、情報収集や出典明示に取り組んでいく。まず、テーマを決めて情報を集める。パンフレットの構成を考え、さらに情報を集めたり精査したりする。パンフレットにのせる情報を選ぶ段階では、情報と情報の関係づけや図表の活用などを意識する。パンフレットを完成させたら読み合って、感想を伝え合う。最後に、情報発信する際に気をつけたことを振り返らせる。 制作物を校内に掲示したり、学級通信で配布したりすることを事前に伝えておくと、さらに意欲的に学習に取り組むことができる。
11	熟語の構成と意味 言葉	2	その修飾は、どこにかかるの？ 言葉	1	I	*学習領域をそろえるために、6年は教科書の学習順を入れ替える。 【5年】熟語の構成や使い方について理解することをねらいとする。まず、教科書 170 ページを読み、熟語の構成の六つの型を確かめる。そして、漢字の読み方と意味の関係を確かめ、その後、教科書の練習題に取り組み、理解を深める。このとき、構成④（上が下を修飾する）と⑤（上が動作、下が動作の対象）の区別が難しいという声が児童から出る場合がある。そこで、二字の熟語の場合、④は上から訓読みをする（鉄橋：鉄の橋、再考：再び考える）、⑤は下から訓読みをする（読書：書を読む、乗馬：馬に乗る）という区別の仕方を伝えるようにする。 【6年】修飾する言葉の使い方について理解し、修飾の関係が明確な文章を書くことをねらいとしている。まず、教科書 150 ページ「どこが分かりにくいのかな」の文例を提示し、吹き出しに着目させる。次に、教師が準備した意味が明確になっている文と比較する。そして、意味があいまいになる要因について考えるようにする。要因をはっきりさせた後、教科書 151 ページ上段の練習問題に取り組む。
	提案します、一週間チャレンジ 話聞	4	プレゼンテーションをしよう 話聞	5	Ⅲ	*題材を5年「一週間チャレンジ」、活動を6年「プレゼンテーション」として、2学年がいっしょに学習する。 学校生活をよりよくするための取り組みやイベントを考えて、聞き手の印象に残るように、資料を使って提案することをねらいとする。学校をよりよくするための「一週間チャレンジ」を提案し、最も賛同を得たものにクラス全体で取り組むということを知らせる。高学年として学校全体のことを考えること、より多くの賛同を得るためにはどのような提案をしなければならないかを問いとして学習の見通しを持つ。そして、①よりよくしたいことを見つけて、情報を集める。②提案することを考える。③プレゼンテーションの構成を考える。提案については教科書を参考に準備していく。提案することが決まったら、QR コンテンツの動画を視聴し、発表のイメージを持たせたり、よい点を自分の発表に取り入れたりできるようにする。6年生が資料作成を行う時間を設けるなどして時間調整をする。 なお、異学年のペアまたはグループでプレゼンテーションを行うようにすると、下学年は取り組みやすくなる。クラスの実態に合わせる。
	和語・漢語・外来語 言葉	2	複合語 言葉	2	I	【5年】和語、漢語、外来語の由来や区別について関心を持つことをねらいとする。まず、教科書176～177ページの和語、漢語、外来語の説明を読ませ、ノートにまとめさせていく。教科書の内容を読み取りノートにまとめるといった、自分で学習を進める方法を取り入れることで、複式学級での授業を成立させていく。身近な語から和語、漢語、外来語を集め、それぞれの言葉を使って文を書いて、使い方や印象の違いなどについて考える。 【6年】複合語の構成と特徴について理解することをねらいとする。教科書184～185ページの語からさまざまな言葉の組み合わせの例を知り、その種類を分類する。身の回りから複合語を探して、それぞれの言葉を使って文を書き、複合語のよさについて考えるようにする。 時間に余裕があれば、異学年で「言い換えクイズ」や「言葉の足し算」等の簡単なクイズを出し合う活動も考えられる。
	○人物像について考えたことを伝え合おう 読 大造じいさんとがん	7	○物語を読んで、人物の生き方について考えよう 読 海のいのち	9	I	【5年】行動や会話などから大造じいさんの人物像を想像し、考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、人物像について考えたことを伝え合うという学習の見通しを持たせる。物語のあらすじを確かめ、大造じいさんの人物像や心情の変化を想像する。情景描写にも着目して心情を読み取っていく。人物像について考えたことやその根拠を書いたものを読み合い、それぞれのよさや、感じ方や考え方の違いを伝え合う。最後に、行動や会話などからどのような人物像を想像したかを振り返らせる。 【6年】人物の生き方について考え、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを伝え合うことをねらいとする。物語が最も強く語りかけてきたことを考え、伝え合うという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。物語で起こる出来事と中心人物の変化について考えたうえで、物語が自分に最も強く語りかけてきたことを短い言葉でまとめる。中心人物である太一がほかの人物からどのような影響を受けたのかを考えて、太一の成長を読み取らせる。最後に、物語が自分に強く語りかけてきたことについてどのように考えたかを振り返らせる。
12						

月	単元名・教材名 5年	配当時数	単元名・教材名 6年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
	漢字を使おう 6 言葉	1	漢字を使おう 6 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ
12	心情を表す言葉 言葉	1	似た意味の言葉の使い分け 言葉	1	I	【5年】教科書 198 ページの文例を示し、「すごかった」では感動した気持ちが十分に表されていないことに気づかせて、学習課題を捉えさせる。自分だったらどのような言葉で感動を表すか、教科書に示されている言葉の一つずつ提示していき、選択させるようにする。できた文を、初めの文と比較する。そして、心情を表す言葉について、教科書 199 ページを参考に、言葉集めをしたり、文作りを行ったりすることで心情を表す言葉について理解する。 【6年】教科書 202 ページの会話を読み、似た意味の言葉を正しく使わないと、意図が正しく伝わらないことがあることを確かめて、学習課題を捉えさせる。意図を正しく伝えるためには、どの言葉を選べばよかったかを確認する。その後、さまざまな言葉を比べて、似た意味の言葉の使い分けについて理解する。
	日本語と外国語 言葉	4	言葉の移り変わり 言葉	1	I	*学習領域をそろえるために、6年は教科書の学習順を入れ替える。 【5年】日本語と外国語を比べ、日本語の特徴に気づくことをねらいとする。教科書 203 ページ①「音と文字との関係」から、日本語の特徴を捉えさせる。また、201 ページ②「文の組み立てと語順」から、日本語の特徴を捉えさせる。そして、英語やほかの国の言葉について調べさせ、分かったことや考えたことをまとめることができるようにする。最後に、学習を振り返らせ、日本語の特徴についての理解を確かめることができるようにする。 【6年】言葉には時間の経過による変化や世代による違いがあることを理解することをねらいとする。教科書 216 ページの「竹取物語」を使い、時代による言葉の変化について理解する。世代による言葉の違いについては、教科書 217 ページ上段にある言葉を使ってクイズに取り組んでもよい。そして、時間があれば、本やインターネットを使って、世代によって言い方の異なる言葉を調べる。
	読書の世界を広げよう 読書	2	心に残った、この一文 読書	2	Ⅲ	*5・6年がいっしょに学習する。実態に応じてどちらかの活動を選択する。 共通のねらいは、本と本のつながりや自分と読書との関係を捉え直し、本を紹介し合い、読書生活を広げることである。5年の読書マップ、6年の心に残った一文の紹介のいずれかを選んで取り組む。読書マップや照会カードを読み合って、読んでみたい本について伝え合う。友達が紹介した本や教科書で紹介している本などをきっかけに、今後の読書につなげるようにする。個人の読書記録があれば、参考にする。
	漢字を使おう 7 言葉	1	漢字を使おう 7 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ
1	いにしえの人のえがく世界 伝統	3	古典芸能への招待状 伝統	3	I	【5年】古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、現代の自分たちと比べて考えをまとめることをねらいとする「枕草子」とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、自分たちと比べてみるという学習課題を知る。「枕草子」の作者のものの見方や感じ方を、自分たちと比べながら捉え、四つの季節の中から好きなものを選び、自分が感じるその季節のよさを文章に書く。書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 【6年】古典芸能について理解し、考えたことを文章にまとめることをねらいとする。教科書 210～214 ページを読んで、伝統的な芸能について理解する。QR コンテンツでさまざまな地域の芸能を見てもよい。狂言「神鳴」の動画を見たり音読したりして、気づいたことやおもしろいと思ったことを文章にまとめる。伝統芸能について考えたことを伝え合う。
	○ロボットとの未来について考えよう 読 「弱いロボット」だからできること	6	○宇宙や地球の未来について話し合おう 読 宇宙への思い	6	I	【5年】二つの文章を読み、ロボットとの未来について考えたことを話し合うことをねらいとする。二つの文章を読み、ロボットとの未来について考えたことを話し合うことをねらいとして学習する。学習課題をつかんだ後、テクノロジーの進歩について、知っていることや思ったことを話し合う。資料「ロボット開発は進む」と『『弱いロボット』だからできること』を読んで、ロボットとの未来について多角的に考えていく。そして、テクノロジーと私たちの関わりについて考えをまとめて文章を書き、それを読み合って互いの考えについて話し合う。最後に、二つの文章を読むことで考えがどう変わったり深まったりしたかを振り返らせる。 【6年】宇宙に関わる筆者による三つの文章を読み、宇宙や地球の未来について考えたことを話し合うことをねらいとする。導入では「宇宙」から思い浮かぶことを自由に発言させてから学習課題を捉えさせる。三つの文章の内容を確かめて、比較・整理し、それぞれの文章に対する自分の考えをまとめさせる。三つの文章をもとに、宇宙や地球の未来について考えたことを書いて、話し合う。その際、文章に書かれている内容を関連付けて理解を深めていくようにする。最後に、複数の文章を読んで考えたり、考えたことを伝え合ったりして、どのように考えが広まったり深まったりしたか振り返らせる。
	漢字を使おう 8 言葉	1	漢字を使おう 8 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ
	考えのちがいを 情報	1	未来への情報活用 情報	1	I	【5年】教科書 228 ページの漫画から学習課題を捉えさせる。お互いの考えが違うとき、相手の考えとその理由を確かめることの大切さを理解させ、どのように解決するとよいかについて話し合う。練習問題を使って、お互いが納得できるための理由について考える。 【6年】教科書 234～235 ページを読んで、これまでに「情報のとびら」で学んだことを振り返る。QR コンテンツ「情報のとびら一覧」を使って、「四つの力」を確認した後、具体的な場面の一つ考えて文章にまとめ、伝え合う。
2	どう考える？ もしもの技術 書 漢字を使おう 9 言葉	6 1	どう立ち向かう？ もしもの世界 書	7	I	*学習時間をそろえるために、5年は教科書の学習順を入れ替える。 【5年】反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことをねらいとする。教科書 230 ページの QR コンテンツ「動画」を視聴して学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。そして、教科書 231～234 ページを参考に、意見文を書いていく。教科書では、三つの「ひみつ道具」が紹介されているので、児童に選択させるようにする。もし、他の「ひみつ道具」について書きたいという児童がいれば認める。構成を考える際には、必ず予想される反対意見とそれへの対応を入れることを確認しておく。 【6年】情報を多面的に検討しながら、説得力のある意見文を書くことをねらいとする。教科書 236 ページの QR コンテンツ「動画」を視聴し、学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。資料①～⑩を確認して、教科書 240 ページ「四人の考え」がどの資料を受けているのかを考える。四人のうち誰にアドバイスしたいかを選んで、意見文を書く。その際、条件だけでなく、資料の引用の仕方、考えと理由が結び付いているか等にも気をつけて書くようにする。友達と意見文を読み合い、説得力を高める工夫について話し合う。
	資料を見て考えたことを話そう 話聞	6	伝えよう、感謝の気持ち 話聞	5	Ⅱ	*学習領域をそろえるために、5・6年ともに教科書の学習順を入れ替える。 【5年】「食品ロス」に関する資料を関係づけながら、自分の考えを話すことをねらいとして学習する。まず、教科書 238 ページの動画を視聴し、学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。教科書 239～243 ページを参考に、資料を読んで自分の考えをまとめる。話の構成を考えて、話す練習をする。その際に、QR コンテンツ「動画」を参考にしたり、ICT 端末で自分の話す姿を撮影したりして、練習に生かすようにさせてもよい。最後に、資料を使って自分の考えを聞き手に伝えるためにどのようなことに気づけたのかを振り返らせる。 【6年】6年は、話の構成や表現の工夫を考えて、感謝の気持ちを伝えるビデオメッセージを作ることをねらいとする。まず、「お世話になった人のビデオメッセージを作成する」という学習課題を知り、学習の見通しを持つ。話す相手は、ビデオメッセージの特性を考えて、遠く離れている人や、日常の中で関わる機会が少ない人を選ぶようにする。また、話の内容だけでなく、話し方や表情、動作なども工夫するように促す。話し方のポイントについては、一斉学習の時間の中で行うようにする。
	漢字を使おう 10 言葉	1	漢字を使おう 9 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ

月	単元名・教材名 5年	配当時数	単元名・教材名 6年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
2	○伝記を読んで感想文を書こう 読 手塚治虫	5	成長をふり返って未来へ進もう 書	6	I	【5年】 伝記に描かれている人物像を捉え、生き方についての考えをまとめることをねらいとする。伝記に描かれた人物の考えや生き方を読み取り、感想文を書くという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。「手塚治虫」を読んで、治虫の考えや生き方を読み取る。そこから治虫の人物像を捉えていく。感想文を書く際には、心に強く残ったことや、手塚治虫と自分とを重ね合わせて考えたこと、生き方について考えたことなどを観点として、感想を膨らませる。感想文を読み合って、お互いのよさや違いを伝え合う。最後に、伝記の人物と自分とを重ね合わせてどのようなことを考えたかを振り返らせる。 【6年】 出来事の意味を考えながら、小学校6年間を振り返る文章を書くことをねらいとする。6年間の経験から、書くことを探し、どのような出来事を取り上げるかを考え、文章の構成を整理する。書くことを選ぶ際は、目的や読んでほしい相手を話し合い、影響を受けた人物や出来事について具体的に取り上げるように助言し合えるようにしたい。次の単元「表現をくふうする」と合わせて行うことで、学びの必然性が生まれることが期待できる。
3	方言と共通語 言葉	2	表現をくふうする 言葉	4	IV	*学習時間をそろえるために、5・6年ともに教科書の学習順を入れ替える。 【5年】 方言と共通語について理解し、場に応じた適切な言葉遣いをすることをねらいとする。教科書を読んで、方言と共通語の違いや、それぞれの特徴とよさについて理解する。自分の住む地域の方言について、身近な人にインタビューしたりインターネットで調べたりして、方言に関心を持てるようにする。 【6年】 比喩や倒置、反復などの表現について理解し、その効果を考えて文や文章に取り入れることをねらいとする。教科書242ページの文章を読んで、見つけた表現の工夫について話し合う。表現の工夫がある場合とない場合ではどうかを比較し、表現の効果を考えるようにする。
	わたしの文章見本帳 書	4	○明日への一歩を、言葉とともに 読 君たちに伝えたいこと 春に	2	IV	【5年】 文章の種類に着目して、自分だけの文章見本帳を作ることねらいとする。文章の種類ごとに整理しながら文章のよさを見つけ、そのよさを生かして、書いた文章を別の種類の文章に書き換えていく。この1年間に書いた文章を読み直し、教科書267ページを参考にして種類ごとに整理する。書いた文章の中から一つ選んで別の文種に書き換えて、これまで書いた文章とまとめて文章見本帳を作る。学級で一冊の文章見本帳としてもよい。 【6年】 文章と詩を読んで、自分の考えを広げたり深めたりすることをねらいとする。まず、「君たちに伝えたいこと」を読み、筆者のメッセージについて考え、考えたことを友達と伝え合う。そして、「春に」を読み、作品からどのようなことを感じたり考えたりしたかを確かめる。卒業を間近に控えたこの時期に、二つの作品を読んでどのようなことを考えたかを伝え合う。

2・3年 複式年間指導計画案			＊…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項 I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い II…同領域異教材で一部一斉に行う扱い III…同領域同教材（2・3年同時に行い、「わたり」を行わない扱い） IV…異領域異教材など、I、II、IIIのどれにも当てはまらない場合 国語の授業時数は、2年は週9時間、3年は週7時間が標準と定められている。 配当時間が異なるので、2年が国語を行っているとき、3年は他教科の学習を行うことになる。			
月	単元名・教材名 2年	配当時数	単元名・教材名 3年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	はなしたい、ききたい、すきなこと 話聞	2	あなたのこと、教えて 話聞	2	III	* 2学年がいっしょに学習する。 お互いの好きなものを質問する。この時、質問に対する答えを受けて、さらに質問する姿を評価する。質問には、「どんな～・どうして～・どこで～・どんなこと」（3年14ページ）を使うことをすすめる。2年教科書12ページ、3年教科書14ページの例を読ませて、質問 → 答え → 質問…と対話が続くよう支援する。3年には、質問の答えを受けて、関係のある自分のことも話すことを勧めるようにする。
	○お話を音読しよう 読 風のゆうびんやさん	10	○音読を聞き合おう 読 すいせんのラッパ	6	I	【2年】登場人物の様子が伝わるように、物語を音読することをねらいとする。「音読」という用語を確認して学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。物語を音読し、登場人物を確認することで内容の大体を捉える。手紙を受け取ったときの人物の行動や発言、場面の様子を思い浮かべて音読するようにする。その際、人物の様子が分かる言葉に線を引くことも行わせる。どんな様子を想像したかを話して音読を聞き合う。音読するときどんなことに気をつけたかを振り返る。 【3年】場面や登場人物の様子を読んで想像し、音読で表現することをねらいとする。まず、人物に着目して場面を確かめる。そのとき、各場面でのすいせんのラッパの音やかえるが目覚めたときの様子を整理していく。次に、各人物の様子に応じて音読の仕方を工夫する。「速く」「大きく」などの注意を書き込んで音読台本を作らせるのも一つの方法である。最後は音読したい場面を決めて、音読をする。 単元末に、2学年で音読を聞き合う場を設けてもよい。
	かん字をつかおう1 言葉	1	かん字をつかおう1 言葉	1	I	上段では、前学年で学習した漢字を使って文を書けることをねらいとしている。できた文はそれぞれの学年凸う流するが、両学年で読み合って、下学年が知っている漢字を読んだり、上学年が漢字の使い方を確認したりする活動を取り入れてもよい。以下、「漢字を使おう」については同じ。
	としょかんへ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2	III	* 2学年がいっしょに学習する。 学校図書館を利用して読書に親しむこと、図書館の利用の仕方や置かれている本について理解することを、共通のねらいとする。2年は学校図書館での約束事の確認と、大まかな配架について理解する。3年は、目次や索引の活用、日本十進分類法（NDC）について理解する。今後の調べ学習のために辞典や図鑑のコーナーを確認させる。
	かん字の書き方 言葉	3	国語じてんの使い方 言葉	2	I	【2年】漢字の筆順と画数について理解することがねらいである。既習漢字を使って筆順と画数を確かめ、漢字を正しく書く練習ができるようにする。 【3年】国語辞典の仕組みや使い方を理解することができるとをねらいとする。国語辞典を使ってさまざまな語を調べるという学習課題を確かめ、国語辞典の仕組みと引き方を理解する。そして、国語辞典の語の配列を知って、実際に辞典を引きながら、使い方に慣れていく。また、活用のある語の見出し語の形を知り、国語辞典を使って、文脈に合った表記や意味を調べ、国語辞典の必要性を確認する。
5	はたらく人に話を聞こう 話聞	4	メモを取りながら話を聞こう 話聞	4	II	【2年】学校で働く人に話を聞いて、だいじなことを聞き取ることをねらいとする。質問を考えてだいじなことを落とさずに聞くという学習課題を捉えて、学習の見通しを持つ。教科書36ページのやりとりの音声（QR「話を聞いてみよう」）を聞き、質問の仕方や話の聞き方について考える。実際に話を聞いた後に、聞いたことを伝え合う。 【3年】話の中心を捉えて、要点を記録しながら聞くことをねらいとする。まず、これまでの経験を振り返り、単元の学習の見通しを持つ。教科書39ページのやりとりの音声（QR「話を聞いてみよう」）を聞き、話の聞き方やメモの取り方について考える。また、40ページの二つのインタビューメモを比較したり、QR「メモの取り方」を参照したりして、メモを取ることで、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えながら聞く方法について学習する。 実際に話を聞きに行く活動は2学年いっしょに行う。それぞれのめあてを持って聞くように意識させる。
	○たんぼぼのひみつを見つけよう たんぼぼ 読	10	○読んで考えたことをつたえ合おう 自然のかくし絵 読	8	I	【2年】順序を考えて読み、文章を読んで分かったことや考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、たんぼぼについて知っていることを出し合い、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読み、書かれている順序に着目しながら、たんぼぼの秘密を見つける。見つけた秘密の中から友達に伝えたい秘密を選び、文章に書いて伝え合う。どんな言葉をもとに順序について考えたかと振り返らせる。 【3年】段落ごとに文章の内容を捉えることをねらいとする。「だん落」という用語を理解し、段落ごとの内容を読み取ってまとめ、段落ごとに中心文を見つけて、それぞれの段落の文章の内容を捉えていく。そして、読み取ったことをもとにして、感想を伝え合う。
	かん字をつかおう2 言葉	1	漢字を使おう2 言葉	1	I	「漢字を使おう1」に同じ。
			全体と中心 情報	2	I	情報の全体と中心について理解し、全体と中心に気をつけて文や文章を書くことをねらいとする。次単元『わたし』の説明文を書こう」と合わせた単元として扱ってもよい。伝えたいことを相手に伝えやすくするためには、中心を明確にして述べるのが大切だということを、教科書54ページの漫画からつかませる。そして、伝えたいことの中心をもとに具体例を並べて説明する文章を練習として書かせていく。
	かんさつしたことを書こう 書	8	「わたし」の説明文を書こう 書	12	II	【2年】身の回りのものを観察して記録する文章を書くことをねらいとする。学習課題を明確にし、学習の見通しを持った後、身の回りの花や、育てている野菜などを観察し、大きさ・形などで気がついたことをメモに書く。このとき、教科書52ページの「田中さんのメモ」を参考にさせて、大きさや色、数などを書くようにさせる。そして、教科書51ページのような「観察カード」を仕上げていく。最後に、友達と互いの文章のよいところを伝え合うなどして単元の学習を振り返らせる。 【3年】話の中心を明確にし、文章の構成を考えながら書くことをねらいとする。まず、教科書の文例を参考にして単元の学習の見通しを持たせる。伝えたいことを決める際には58ページのウェビングを活用する。直前に学習した「全体と中心」を活用しながら話の中心を決めて、文章の組み立てを考える。書いた文章を読み合い、分かりやすく伝えるためにした自分や友達の工夫を振り返る。 2学年で互いの文章を読み合う場を設ける。3年の文章を、題名・筆者名を伏せて「誰のことを書いたのか」を2年生に当てさせるクイズの場を設定することもできる。

	単元名・教材名 2 年	配当時数	単元名・教材名 3 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
5	かたかなで書くことば 言葉	3	漢字の表す意味 言葉	2	I	〔2年〕片仮名で書く言葉について理解し、文や文章の中で正しく使うことができることをねらいとする。これまでの生活経験などから、身の回りにはどんな片仮名で書く言葉があるか考えさせて、学習の見通しを持たせる。片仮名の言葉を集めて、片仮名で書く言葉の種類を理解する。片仮名を正しく書く練習をし、集めた言葉で短文を作る。 〔3年〕複数の意味を持つ漢字があることを知り、その意味の違いについて理解することをねらいとする。同じ漢字を使った熟語について、その意味を考える。複数の意味を持つ漢字についてのクイズを作り、出し合う活動も考えられる。
6	〇すきな場めんを見つけよう 読 名前を見てちょうだい	11	〇物語をみじかくまとめてしょうかいしよう 読 ワニのおじいさんのたから物	8	I	〔2年〕物語をいくつかの場面に分けて、好きな場面を見つけることをねらいとする。既習の物語の「場面」について想起して、学習の見通しを持つ。「名前を見てちょうだい」を読み、物語の場面を確かめさせる。好きな場面を見つけ、その場面を友達に伝える場を設ける。最後に、好きな場面と選んだ理由を振り返らせる。 〔3年〕登場人物や起こった出来事など、物語の内容を短くあらすじにまとめることができることをねらいとする。まず、物語を読んで場面分けをし、話の大体を確かめる。登場人物の性格と、その根拠となる叙述について考えることで、おにの子の優しさと、それに対するワニの行動を押さえる。最後に、「紹介カード」にあらすじと感想を書いてお互いに読み合う。
	かん字をつかおう3 言葉	1	漢字を使おう3 言葉	1	I	「漢字を使おう1」に同じ。
	じゅんじょ 情報	3	人物やものの様子を表す言葉 言葉	2	I	〔2年〕物事の順序について理解し、順序に気をつけて文や文章を書くことをねらいとする。教科書 74 ページの漫画から、なぜ作り方が分からなかったのかを考えさせる。分かりやすく伝えるためには順序が大切だということに意識を向けさせる。教科書 75 ページのポイントから、順序にはさまざまな種類のものがあることを理解させようで、図工や生活などでの問題場面を設定し、順序に気をつけて文や文章を書かせる。 〔3年〕人物やものの様子を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで書くことをねらいとする。教科書 78 ページの例を用いて同じものの様子を表す言葉を出し合い、分類したり程度に応じて並び替えたりする。
	こんなことをしているよ 書	10	心が動いたことを詩で表そう 書	6	I	〔2年〕組み立てを考えて、経験したことを伝える文章を書くことをねらいとする。学習課題を明確にし、学習の見通しを持ったうえで、家でしていることを振り返りながら、文章に書く事柄を考える。教科書 78～79 ページの作品例を読んだり、友達と話し合ったりしながら、組み立てを考えて文章を書く。最後に、友達と互いの文章のよいところを伝え合うなどして学習を振り返らせる。 〔3年〕表現を工夫しながら詩を作ることをねらいとする。単元の学習の見通しを持ち、これまでの経験から書きたいことを決める。これまでに書いた文章や日記などを参考にしてもよい。前単元の学習を生かし、伝えたいことに合う言葉を選んで詩を書く。書いた詩を互いに読み合い、感じたことを伝え合う。
7	話そう、二年生のわたし 話聞	5	ローマ字① 言葉	3	IV	〔2年〕だいじなところが伝わるように工夫して、心に残った出来事を話すことをねらいとする。まず、だいじなところが伝わるように話すという学習課題を明確にして、学習の見通しを持つ。二年生になって心に残った出来事を思い出させ、話すことを決める。話す練習をする際には、教科書84ページのQRコンテンツの動画を参考にして、声の大きさ、話す速さを意識させる。ICT端末で話す様子を撮影して見返してもよい。みんなの前で話して感想を伝え合う。最後に、だいじなところが伝わるようにどのような工夫をしたかを振り返らせる。 〔3年〕ローマ字で書かれた簡単な単語を読み、ローマ字を使って単語を書くことをねらいとする。簡単な単語をローマ字で読み書きするという学習課題を確かめ、ローマ字の表記の原則を理解する。そして、ローマ字を書く際に気をつける点を確認し、読んだり書いたりする。身の回りにあるものや自分の名前などをローマ字で書き表すことで、学習の定着を図る。
	〇二つの文しょうをくらべよう 読 どうぶつ園のかんばんとガイドブック	10	〇書き手のくふうを考えよう 読 「給食だより」を読みくらべよう	8	I	〔2年〕二つの文章を比べて、それぞれのよいところを考えることをねらいとする。二つの文章を読み比べて、違いを考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。動物園のアフリカゾウの説明が書かれた二つの文章を読み、見出しに沿って表に整理して共通点や相違点を見つけさせていく。そこから、看板の説明のよさ、ガイドブックの説明のよさに目を向けさせ、その役割に違いがあることを理解させていく。最後に、二つの文章の説明の仕方と役割の結びつきについて考えたことを振り返らせる。 〔3年〕二つの「給食だより」を読み比べて、書き手の目的や意図に照らして文章の工夫や効果を読み取ることをねらいとする。まず、教科書の二つの文章を読み比べて、どちらの「給食だより」を選ぶか考えるという学習課題を確かめ、学習の見通しを持つ。次に、教科書 94～95 ページの二つの「給食だより」を読み比べ、それぞれの文章における書き手の目的や意図に応じた表現の工夫や効果を考える。最後に、二つの「給食だより」の表現の工夫によって生まれる読み手の感じ方を考えて、理由を明確にノートに書いて「給食だより」を選択する。
	言いつたえられているお話を知ろう 伝統	4				神話や伝承の読み聞かせを聞き、内容や感想などを伝え合うことねらいとする。「だいだらぼう」の読み聞かせを行う。教科書 98 ページの QR コンテンツ「だいだらぼうのお話」を利用してもよい。伝承について興味を高め、地域の民話や、神話・伝承についても図書館を利用して読ませていく。さらに、神話や伝承などの本から好きなところを見つけて声に出して読み、感じたことや分かったことを伝え合わせる。
	二年生の本だな 読書 一本はあたらしいせかいへの入り口	4	三年生の本だな 読書 一心の養分	2	III	* 2 学年がいっしょに学習する。 読書に親しみ、多様な本を選んだり読んだりすることをねらいとする。夏休み前に、図書室で借りる本の計画を立てるときに実施するとよい。最初に、各教科書104～105ページの読書体験文をそれぞれ読ませる。2 年には 3 年が読み聞かせるのもよいと思われる。文中の「本はあたらしいせかいへの入り口」（小林快次・2 年）、「本は、心の養分」（茂市久美子・3 年）という言葉を取り上げて、読んだことのない分野の本にも興味を広げるように促す。そのうえで読みたい本を探させる。読書体験文の筆者の薦める本や、「〇年生の本だな」で紹介している本を手がかりにさせる。図書室で多様な本に触れ、夏休みの読書につなげる。

月	単元名・教材名 2 年	配当時数	単元名・教材名 3 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
9	○しを読もう 読 いろんなおとのあめ 空にぐうんと手をのばせ	3	○詩を読もう 読 紙ひこうき 夕日がせなかをおしてくる	2	Ⅱ	【2年】言葉の響きやリズムを楽しみながら詩を音読し、感想を持つことをねらいとする。詩を音読して、描かれている様子を想像し、自分の体験と結び付けて感想を持つようにさせる。 【3年】詩の構成や表現に着目して様子を想像し、感想を持って音読することをねらいとする。詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、グループで工夫して詩を音読する。
	みんなで話し合おう 話聞	8	グループの合い言葉を決めよう 話聞	7	Ⅲ	*学習領域をそろえるために、3年は教科書の学習順を入れ替える。 【2年】互いの話をよく聞いて、言葉をつないで話し合うことをねらいとする。学習課題を明確にして学習の見通しを持たせる。「行ってみたいお話の世界」を選び、そこでしたいことを話し合う。その際に教科書 113 ページの QR コンテンツの動画を視聴させるなどして、言葉をつないで話し合いをするイメージを持たせるとよい。話し合いの様子を撮影して、後で見返すことができるようにしておく。最後に、話し合うときにどんなことに気をつけたかを振り返らせる。 【3年】話し合いの目的を理解して、司会の役割や話し合いの進め方を意識しながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることをねらいとしている。まず、自分の考えを持たせた後、話し合いの目的と進め方を確かめるようにさせる。そして、グループで話し合わせる。最後に、グループで考えをまとめるためにどのようなことに気をつけて話し合ったかを振り返らせ、これからの学習に生かそうという意識を高めることができるようにする。
			漢字を使おう 4 言葉	1		「漢字を使おう 1」に同じ。
	○そうぞうをふくらませて読もう 読 ニャーゴ	12	○中心人物について考えたことをまとめよう 読 サーカスのライオン	9	I	*学習領域をそろえるために、3年は教科書の学習順を入れ替える。 【2年】人物の様子を想像して、音読で表すことをねらいとする。題名や挿絵から物語について想像を広げるとともに、学習課題を捉えて、学習の見通しを持たせる。「ニャーゴ」を読み、物語の中で起こった出来事を場面ごとに確かめさせる。人物の行動や会話から様子を想像させ、想像したことを音読で表すようにする。互いに聞き合い、人物のどんな気持ちをどのような声で表したか確かめ、単元の学習を振り返る。 【3年】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、物語の中心人物について考えることをねらいとする。単元の学習の見通しを持った後、「サーカスのライオン」の中心人物がどのような人物かを考える。。まず、中心人物がライオンの「じんざ」であることを確認し、場面ごとの「じんざ」の行動や様子を読み取る。次に、じんざの様子や気持ちの変化を想像する。最後に、じんざに伝えたいことを文章にまとめる。
	かん字をつかおう 4 言葉	1	漢字を使おう 5 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
10	ものの名前をあらわすことば 言葉	3	主語とじゅつ語、つながってる？ 言葉	2	I	【2年】物の名前を表す言葉について理解し、語彙を豊かにすることをねらいとする。意味によるまとまりを考えながら、身近な物の名前を表す言葉を集めさせる。その際、「ことばの広場」(144 ページ)を活用させてもよい。1 年の学習を想起させ、「まとめて呼ぶ言葉」と「仲間になる言葉」に分類することも行わせる。集めた言葉を使って文を作ることで言葉の使い方を意識させる。 【3年】主語と述語の関係を理解し、主語と述語を適切につなげて文を書くことをねらいとする。まず、教科書 128 ページ「どこがおかしいのかな」の例文について話し合う。主語と述語に着目して、文の構成を図示したり文を作ったりする。
	絵を見てお話を書こう 書	10	案内の手紙を書こう 書	5	I	【2年】内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫して、簡単な物語を書くことをねらいとする。場面のつながりを考えて物語を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持たせる。まず、①②④の絵(135 ページ)を見せるとともに、登場人物像や場面ごとの様子について分かったことや想像できることを話し合わせる。①②④の情報をもとに、③の場面ではどんな出来事が起こったのか考えて物語を書かせる。書いた物語の発表会を開き、楽しい、おもしろいと思ったところを伝え合わせる。最後に、どのようなことに気をつけてつながりのある物語を書いたかを振り返らせる。 【3年】相手に伝える必要があることを落とさずに書くとともに、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることをねらいとする。まず、だいじなことを落とさずに案内の手紙を書くという学習課題を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。次に、案内の手紙で必要な事柄と手紙の構成を考える。そして、下書きをし、清書する
			慣用句を使おう 伝統	3		慣用句について知り、意味や使い方を調べて、それを使った文を書くことをねらいとする。調べたことをまとめて冊子を作り、2 年に見せる場を設定してもよい。
	○ビーバーのひみつを伝えよう 読 ビーバーの大工事	11	○きょうみを持ったことをしょうかいしよう 読 せっちゃくざいの今と昔	9	I	【2年】文章を読んで見つけたビーバーの秘密を伝え合うことをねらいとする。「たんぼぼ」での学習を振り返り、学習の見通しを持つ。文章をよんで、何が書いてあったか確かめる。必要に応じて、教科書9ページのQRコンテンツ「ビーバーのどうが」からビーバーのダム・巣作りの様子を見せる。体のこと、特徴、ダムを作る理由など項目を示し、ビーバーの秘密を見つけることができるようにする。そして、見つけた秘密を伝え合う場を設ける。最後に、伝えたい秘密をまとめるときどのような言葉をもとに考えたかを振り返らせる。 【3年】目的を意識して、中心となる語や文を見つけながら文章を読み、書かれていることを要約することをねらいとする。まず、「せっちゃくざいの今と昔」を読み、興味を持ったことを考える。伝えたいことの中心が分かるように、教科書 18 ページの「言葉の力」を活用しながら興味を持った内容を要約する。要約した文章を紹介し、感想を伝え合う。最後に、伝えたいことを紹介するためにどんなところに気をつけて文章を要約したかを振り返らせる。
			分ける 情報	2		【3年】情報を分類する方法を理解し、情報を分かりやすく整理することをねらいとしている。さまざまな物や事柄について、分類し整理していく。さまざまな整理の仕方を確かめ、これからの学習に生かしていく。「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。

月	単元名・教材名 2年	配当時数	単元名・教材名 3年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
11	本でしらべる 情報	3	道具のひみつをつたえよう 書	10	I	知りたいことを本で調べる方法を理解し、調べて分かったことを書くことをねらいとする。知りたいことに関係のある言葉を手がかりにして、図鑑などの本で調べること、目次を活用することを理解する。
	「どうぶつカード」を作ろう 書	8				【2年】調べたことを「どうぶつカード」に分かりやすくまとめることをねらいとする。「ビーバーの大工事」での学習を踏まえて、動物について本で調べた情報を「カード」にまとめるという単元のねらいを確認する。まず、調べる動物を決めさせることから学習を始める。「本でしらべる」での学習を生かす。次に、選んだ動物について知りたいことや調べて分かったことをノートなどに書く。そして、書いたことを、教科書25ページを参考にして「どうぶつカード」にまとめていく。完成したカードを、友達と読み合う。最後に、調べたことをまとめるときに気をつけたことについて振り返らせる。 【3年】調べたことを整理してレポートを書くことをねらいとしている。既習事項を確かめ、教科書23ページを見てレポートを書くという単元の見通しを持つ。身の回りの物から調べることを決め、調べたことを整理して、レポートの「組み立てメモ」に残していく。書いたレポートを互いに読み合い、感想を伝え合う。
	主語とじゅつ語 言葉	3	こそあど言葉 言葉	2	I	【2年】主語と述語の働きを理解することをねらいとする。主語と述語がどのようなものであるかを押さえさせ、学習課題を明確にできるようにする。短い文を作って、主語と述語の関係を確かめることができるようにする。さらに、さまざまな文を使って、主語と述語の関係を確かめさせる。 【3年】「こそあど言葉」について、その働きや種類、指し示すものなどについて理解することをねらいとする。「こそあど言葉」の働きや種類、指し示すものなどについて理解させていく。また、状況に応じた「こそあど言葉」を選んで書いたり話したりする。
	町で見つけたことを話そう 話聞	7	話したいな、好きな時間 話聞	6	III	【2年】町で見つけたことについて、組み立てを考えて話すことをねらいとする。話す事柄の順序を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話す。初めに、生活科で学習した「町探検」と関連して町で見つけたことを振り返って、何を話すかを決める。次に、聞き手に伝わるように、話の組み立てを考える。教科書 36 ページの動画も必要に応じて視聴させる。材料集めや話す練習の際にペアでの学習を取り入れる。練習を生かしてみんなの前で話す。最後に、どのように組み立てを考えたかを振り返らせる。 【3年】話すことの内容を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話すことをねらいとして学習する。「好きな時間」という話題で、話す内容を決めて、材料を書き出す。次に、材料の中から話の中心にすることを選んで組み立てを考える。声の大きさや話す速さに気をつけて、みんなの前で話す。最後に、どんなことに気をつけて話したかを確かめ、単元の学習を振り返り、身につけた「言葉の力」を確かめる。
	かたかなをつかおう 言葉	1	漢字の読み方 言葉	3	IV	【2年】片仮名で書く言葉を理解し、正しく片仮名に書き換える。 【3年】漢字の音訓や送り仮名について理解することをねらいとする。まず、音訓や送り仮名に注意して漢字を正しく使うという学習課題を確かめる。そして、漢字の音と訓、送り仮名について理解する。ここでは、今まで習った漢字の音読み・訓読みについて調べる活動を行ってもよい。
12	なかまになることば 言葉	3	ローマ字② 言葉	2	I	【2年】仲間になる言葉に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとする。仲間になる言葉とはどのようなものかを押さえさせ、学習課題を明確にできるようにする。教科や色、形など、身の回りから仲間になる言葉を集めて分類させる。 【3年】ローマ字の読み書きを確かめるとともに、コンピューターでの入力に活用できるようにすることをねらいとする。ローマ字の表記について確かめてから、コンピューターで日本語を入力するときにローマ字を活用できることを理解する。ここでは、実際にコンピューターでローマ字を使って文を作るなどの活動を行ってもよい。
	「ありがとう」をつたえよう 書	6				感謝の気持ちを相手に伝えるために必要なことを考え、言葉の使い方に気をつけて手紙を書くことをねらいとする。「ありがとう」の気持ちを伝えたい人に手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。気持ちが伝わるように手紙を書き、読み返す。さらに、書いた手紙を声に出して読み返し、相手の名前と自分の名前、感謝していることが具体的に書けているか、文末表現や文字の間違い、言葉の使い方の誤りがないかを確かめさせる。最後に、気持ちを伝えるためにどのようなことを手紙に書いたかを振り返らせる。
	○むかし話をしょうかいしよう 読 かさこじぞう	12	想ぞうしたことをつたえ合おう読 モチモチの木	9	I	【2年】昔話のおもしろさを見つけて、紹介カードで伝えることをねらいとする。昔話を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読み、物語の中で起こった出来事を確かめる。出来事や人物の行動、表現などに着目して、おもしろいところを見つける。おもしろかったところを紹介カードにまとめていく。カードを読み合って、それぞれが見つけたおもしろさを楽しむ。最後に、どんなおもしろさを見つけたかを振り返らせる。 【3年】文章を読んで中心人物の性格を想像し、感じたことや考えたことを共有することをねらいとする。まず、学習課題を捉えて学習の見通しを持たせる。次に、登場人物や出来事など、物語の大体を捉える。豆太の性格を想像し、想像したことを友達と伝え合う。「豆太」の性格を想像する際には、場面ごとの「豆太」の行動や会話、様子から読み取らせる。場面ごとに、「○○な豆太」という見出しを考えさせることで、主体的に学習を進めるようにしたい。
			漢字を使おう 6 言葉	1		「漢字を使おう 1」に同じ。
	人がすることをあらわすことば 言葉	3	人物の気持ちを表す言葉 言葉	2	I	【2年】人がすることを表す言葉について理解し、語彙を豊かにすることをねらいとして学習する。教科書 64 ページの挿絵を見て、「だれが」を使った文を発表させる。主語を使って文を作らせることで人がすることを表す言葉について理解できるようにする。教科書の絵やそれ以外の日常の場面を設定し、人を主語にしたいろいろな文を作らせる。 【3年】人物の気持ちを表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで文を書くことをねらいとする。教科書58ページを読んで学習の見通しを持たせて、人物の気持ちを表す言葉について理解させていく。気持ちを表す言葉を集めたり、それらを使って文を書いたりさせる。
			いろいろなつたえ方 言葉	4		いろいろな伝達方法について知り、調べたことや考えたことを書くことをねらいとする。手話と点字、ピクトグラム、記号などによる伝達方法を理解する。それぞれ、どんな人に何を伝えることができるのかを、教科書を読んで話し合う。考えたことを文に書き、発表する。総合的な学習の時間との関連で実施することも可能である。

月	単元名・教材名 2年	配当時数	単元名・教材名 3年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
12	本の中の友だち 読書	6	本から発見したことをつたえ合おう 読書	4	I	【2年】好きな登場人物について友達と伝え合うことを通して、多様な本があることを知り、読書に親しむことをねらいとする。これまでに読んだ本を振り返り、紹介し合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持たせる。読んだ本を思い出し、みんなに伝える本を1冊決める。教科書 67 ページの作例を参考に、登場人物を紹介するカードを書いて、読んだ本について伝え合う。友達が紹介した本や「二年生の本だな」（教科書 68～69 ページ）で紹介している本などを手がかりに、今後の読書につなげるようにする。 【3年】本の紹介活動を通して、読書によって必要な知識や情報が得られることを知り、幅広く読書に親しむことをねらいとする。これまでの読書経験を振り返らせて、単元の学習の見通しを持たせた後、今までに読んだ本を振り返り、紹介したいノンフィクションや図鑑などを選ばせる。そして、紹介カードを書かせる。その後、カードをもとに本を紹介し合う場を設定する。友達が紹介した本や「三年生の本だな」（教科書 66～67 ページ）で紹介している本などを手がかりに、今後の読書につなげるようにする。
	かん字をつかおう 6 言葉	1	漢字を使おう 7 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
1	むかしからつたわる言い方 伝統	6	俳句に親しもう 伝統	3	I	【2年】長く親しまれるさまざまな言い回しや言葉遊びに触れることを通して、言葉の豊かさや地域の伝統に親しむことをねらいとする。「十二支」「小の月」について知り、楽しんで音読する。次に、「いろは歌」「いろはかるた」「郷土かるた」について知り、かるた作りを行って楽しむ。 【3年】易しい文語調の俳句の音読や暗唱などをして、言葉の響きやリズムに親しむことをねらいとする。まず、五・七・五の音数や季語など、俳句の決まりについて理解する。次に、教科書 70～74 ページの俳句を音読したり、好きな俳句を選んで暗唱したり短冊に書いたりして親しむ。教科書 70 ページの QR「俳句の音声」も活用していく。
	かん字の読み方とおくりがな 言葉	3				送り仮名の役割を理解し、漢字を正しく書いたり読んだりすることができるようにすることがねらいである。まず、送り仮名の意味と役割を確かめさせる。教科書の例文の漢字の送り仮名を確かめさせる。次に、既習の漢字から、送り仮名が複数あるものを確かめさせて、短文を作らせていく。
	○あなのやくわりを考えよう 読 あなのやくわり	9	○生き物についての考えを深めよう 読 カミツキガメは悪者か	9	I	【2年】文章の内容と自分の体験とを結び付けて考え、考えたことを文章にまとめることをねらいとして学習を行う。文章の内容をもとに身の回りの穴について考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。教材文を読んで、それぞれの物に穴が開いている理由や説明の仕方を確認させていく。身の回りの穴を想起させ、その役割を考えたり、本や資料で調べさせたりする。そして、考えたことを伝え合う。最後に、知っていることと結び付けてどんなことを考えたかと振り返らせる。 【3年】筆者の考えとそれを支える理由や事例を読み、生き物について考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、学習の見通しを持たせて、教材文を読ませ、書かれていることを確かめる。そのとき、筆者の考えとその理由や事例を捉えることを意識させる。その後、読んだことをもとに、生き物について考えたことを伝え合う場を設定する。最後に、筆者の考えとそれを支える理由や事例からどのように自分の考えを深めたかを振り返らせる。
2	かん字をつかおう 7 言葉	1	漢字を使おう 8 言葉	1	IV	「漢字を使おう 1」に同じ。
	はんたいのいみのことば 言葉	2				対義語に関心を持ち、言葉を集めたり分類したりすることができることをねらいとしている。まず、反対の意味を表す言葉について確かめ、知っている言葉を挙げる。次に、教科書の練習問題に取り組んだり、身の回りから反対の意味を表す言葉を集めて短文を作ったりする。
	同じところ、ちがうところ 情報	3	考えと理由 情報	2	I	【2年】二つのものを比べて同じところと違うところを見つけ、それらを明確にする方法を知ることがねらいとして学習する。教科書94ページの漫画から、学習課題を捉え、学習の見通しを持たせる。初めに、比べる物と比べる観点を決めて、二つの物を比べる。そのとき、教科書95ページのみかんとレモンについてまとめた表の例を参考にさせる。他のものでも同じように比べて整理させ、表にまとめさせていく。 【3年】考えと理由について理解し、それを生かして文章を書くことをねらいとする。教科書 82 ページの漫画から学習の見通しを持たせ、考えを伝えるには理由が大切であることを理解させる。課題に取り組みせ、考えと理由のつながりが分かるように文章を書くことができるようにする。 「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。
	くらべてつたえよう 書	8	クラスの思い出作りのために 書	8	I	【2年】同じところ、違うところに気をつけて、説明する文章を書くことをねらいとする。まず、「あなのやくわり」や「同じところ、ちがうところ」の学習を想起させ、説明する文章を書くという単元の学習の見通しを持たせる。そして、何を伝えるかを決めさせる。必要なら教科書 97 ページ下の例から選ばせてもよい。伝える観点に沿って整理させてから、文章を書くようにさせる。できあがった文章を読み合わせ、分かりやすく書いているところを評価し合うようにする。最後に、物の特徴をはっきりさせて説明するためにどんな工夫をしたかを振り返らせる。 【3年】自分の考えとその理由を明らかにして文章を書くことをねらいとする。まず、思い出作りについての自分の考えをまとめさせる。次に、ペアやグループで話し合わせて考えを深める。その際、理由とともに話すようにさせる。それから、組み立てを考えて文章を書く。文章を読み合う場を設ける。最後に、自分の考えを伝えるためにどんな工夫をしたかを振り返らせる。
	声に出してみよう 言葉	3				音節(拍)と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いを理解することをねらいとしている。音と文字との関係や、アクセントによる語の意味の違いについて考えるという学習課題を明確に示す。そして、手をたたきながらいくつかの言葉を声に出して言い、音節を確認することができるようにする。教科書の例を声に出して読み、音の高さの違いやアクセントによる語の意味の違いに気づかせていく。
	たからものをしょうかいしよう 話聞	8	道具のうつりかわりを説明しよう 話聞	10	I	【2年】話す事柄の構成を考えて、紹介したいことが聞き手に伝わるように話すことをねらいとして学習する。初めに、自分の宝物について振り返るとともに、学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。宝物について話す材料を集め、その中から宝物についてよく伝わるものを選んで、組み立てを考える。みんなの前で話し、聞き手は感想を述べたり質問をしたりする。最後に、聞く人に伝わるようどのように材料選びをしたかを振り返らせる。 【3年】話の組み立てや話し方を工夫して、身の回りの道具の変遷について調べたことを説明することをねらいとする。説明する道具を決めて、本やインターネットなどを使って調べさせる。説明することを整理して、組み立てを考えさせていく。説明の練習をして、みんなの前で説明する。教科書 104 ページの QR「動画」を見て参考にしながら練習してもよい。最後に、調べたことを分かりやすく報告するためにどのようなことに気づけたかを振り返らせる。
			漢字を使おう 9 言葉	1		「漢字を使おう 1」に同じ。

月	単元名・教材名 2年	配当時数	単元名・教材名 3年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
3	ことばあそびを楽しもう 言葉	6	くわしく表す言葉 言葉	2	I	【2年】さまざまな言葉遊びを知り、身の回りの言葉を使って楽しむことをねらいとして学習する。まず、身の回りの言葉を使って言葉遊びを楽しむという単元のめあてを伝える。そして、数え歌を音読することや創作することを行わせる。また、食べ物しりとりや三文字しりとりなど教科書で紹介されているさまざまな言葉遊びを知り、身近な言葉を使って楽しむことができるようにする。 【3年】詳しく表す言葉を知り、文中の修飾・被修飾の関係をとらえることをねらいとする。詳しく表す言葉の働きについて理解させる。詳しく表す言葉と、それが係る言葉との関係を理解し、文の中で詳しく表す言葉を使わせる。主語・述語・修飾語に分けたカードを動かしながら、文を作ったり、詳しく表す言葉集めを行ったりする。
	○かんそうをつたえ合おう 読 お手紙	12	○物語のしかけのおもしろさをつたえ合おう 読 ゆうすげ村の小さな旅館——ウサギのダイコン	9	I	【2年】物語を読んで自分と比べて感想を持ち、友達と伝え合うことをねらいとして学習を行う。物語を読んで感想を伝え合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持たせる。教材文を読み、場面ごとに人物の行動や様子を確かめたち、物語の始めと終わりを比べて変化を捉えたりする。自分が登場人物だったらどんなことを言ったりしたりするかを考え、友達と感想を伝え合う。最後に、自分の感想と友達の感想を比べて、どんなことを思ったかを振り返らせる。並行して「おちば」（教科書 140 ページ）を読むことに取り組んでもよい。 【3年】物語の仕掛けを見つけて、物語で起こった出来事とのつながりを読み取ることをねらいとする。まず、物語の内容の大体を捉え、物語の仕掛けを探す。起こった出来事を読み取ることを通して、「美月がウサギであるという証拠（仕掛け）を見つけよう」と児童に投げかけることで、意欲を持って学習に取り組むことができるよう促したい。また、自分たちで学習を進めるにあたって、○×クイズなどを行いながら仕掛けを探す活動を行ってもよい。並行して「クマの風船」（教科書 126 ページ）を読むことに取り組んでもよい。
	かん字をつかおう 8 言葉	1	漢字を使おう 10 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
	にたいみのことば 言葉	3	漢字の組み立てと意味 言葉	2	I	【2年】同義語や類義語について理解することをねらいとして学習を行う。教科書を読み、ほかの似た意味の言葉を集めさせる。教科書の練習問題を見ながら、似ているところと違うところについて考える。 【3年】漢字が「へん」や「つくり」などいくつかの部分から構成されていることや部首について理解することをねらいとする。「へん」や「つくり」などの部分の名称と代表的な部首の種類について知り、同じ部首の漢字から意味の共通性を理解する。
	ことばのアルバム 書	7	わたしのベストブック 書	6	Ⅲ	*一年間に書いた文章をまとめる形式として、「ことばのアルバム」か「わたしのベストブック」のいずれかを選択して、2学年いっしょに行う。 1 年間に書いた文章を友達と読み合い、自分の文章のよいところを見つけることをねらいとする。「ことばのアルバム」では、1 年間で最も心に残っている出来事について文章を書き、これまでに書いてきた文章と合わせてアルバムにする。「ベストブック」では、1 年間に書いた文章から三つ選んで、文章を書くときに工夫したことや気をつけたことをカードに書き、一冊にまとめる。いずれも友達と読み合う活動を取り入れて、よかったところを伝え合う。これまでに学習してきたことを踏まえて、それぞれの学年で評価の観点を整理する。

4・5年 複式年間指導計画案			＊…複式学級の特性に応じて配慮が必要となる場合の留意事項 I…同領域異教材で「わたり」を行う扱い II…同領域異教材で一部一斉に行う扱い III…同領域同教材（4・5年同時に行い、「わたり」を行わない扱い） IV…異領域異教材など、I、II、IIIのどれにも当てはまらない場合 国語の授業時数は、4年は週7時間、5年は週5時間が標準と定められている。配当時間が異なるので、4年が国語を行っているとき、5年は他教科の学習を行うことになる。			
月	単元名・教材名 4年	配当時数	単元名・教材名 5年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
4	もしも、こんなことができるなら 話聞	2	集めよう、よいところ 話聞	2	III	*国語学習のスタートとして、わたりを行わず、2学年がいっしょに学習する。 まず、「もしも……ができるなら」とテーマで対話を行い、理由を尋ねたり、質問をしたりして話をつなげる学習を行う。4年は、理由を尋ねたり自分の考えと比べて共通点や相違点を見つけたりするようにさせる。5年は、具体例を挙げたり相手の意見のよいところを見つけたりするようにさせる。
	○想像したことを音読で表そう 読 こわれた千の楽器	8	○人物の心情を音読で伝えよう 読 おにぎり石の伝説	5	I	〔4年〕 人物の様子や気持ちの変化に注意しながら想像を広げ、想像したことを音読で表すことをねらいとする。教材文を読んで、それぞれの場面の楽器たちの様子や気持ちを想像し、その想像したことを、聞き手に伝わるように音読で表現する。その際に、想像したことを音読で表すために、どのような工夫をしたのかを振り返らせる。 〔5年〕 登場人物の心情が変化していく様子を読み取り、音読で表現することをねらいとする。登場人物の心情の変化を音読で表現するにはどのようなことに気をつければよいかを課題として取り組んでいく。 最後に、4・5年が互いの音読、朗読を聞き合う場で表現し、読みの工夫を評価し合う。
	漢字を使おう1 言葉	1	漢字を使おう1 言葉	1	I	上段では、前学年で学習した漢字を使って文を書けることをねらいとしている。できた文はそれぞれの学年凸う流するが、両学年で読み合って、下学年が知っている漢字を読んだり、上学年が漢字の使い方を確認したりする活動を取り入れてもよい。以下、「漢字を使おう」については同じ。
	図書館へ行こう 読書	2	図書館へ行こう 読書	2	III	*4・5年でいっしょに行う。 図書館の利用については、本が内容によって分類・配架されていることを理解し、実際に図書館のどの本棚にどのような種類の本が置かれているか確かめたり、ある題材に関係する本をさまざまな棚から探したりすることができるようにする。4年の教科書で「日本十進分類法」（NDC）について知り、図書館で本を探すときに役立てることができるようにする。
	話を聞いて質問しよう 話聞	5	知りたいことを聞き出そう 話聞	4	III	*4・5年でいっしょに行う。 4・5年が働く人や6年生にインタビューするという活動を行う。（6年生には委員会活動について聞く。）聞く相手は選択することとする。目標は、4年は、聞きたいことの中心を考えて聞き、必要なことをよく知るために質問をすることである。一方、5年は自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えながら聞くことである。まず、4・5年いっしょに活動を始める。インタビュー（質問）の話題、インタビューをするときに気をつけることを確かめる。そして、働く人か、同じ委員会に所属する6年生に、委員会活動で役に立つことを聞くというめあてを確認する。そして、話を聞く意図や目的を確かめ、インタビューで聞きたいことを考えて整理する。総合の時間や昼休みや放課後の時間を使って、インタビューを行う。4年は、聞きたいことの中心を考えて聞くことができたか、必要なことをよく知るために質問をすることができたかを振り返る。5年は、話を聞き出すためにどのようなことに気をつけて聞いたかを振り返る。4年は、聞くことの中心を考えて質問すること、5年は聞きたいことを明確にすることを中心として、目標を変えながら「話す・聞く」活動を行わせていく。
5	漢字辞典の使い方 言葉	2	敬語 言葉	2	I	〔4年〕 漢字辞典の仕組みと3種類の索引の使い方を知り、漢字の学習に活用することができることをねらいとする。まず、漢字辞典の仕組みを知って漢字を調べるという学習課題を確かめる。そして、漢字辞典の仕組みを知り、部首索引や総画索引、音訓索引を使って漢字を探す方法を理解し、三つの索引の使い分けについて考えることを学習する。 〔5年〕 敬語を理解することを中心とした学習を行う。まず、教科書42・43ページを活用して、敬語の種類や使い方を理解する。そして、敬語に書き換える練習問題に取り組んだり、敬語を使った会話文を作ったりして、敬語の使い方について理解を深める。教科書に載っているような文例を利用して、「お」「ご」の尊敬語、謙譲語、丁寧語の区別、尊敬語、謙譲語の特別な言い方を学ばせていく。そうして、相手や場面に応じた言葉遣いを理解させ、適した言葉を選んで使うことを中心とした学習を行わせていく。
	○文章の組み立てをとらえよう 読 ヤドカリとイソギンチャク	8	○要旨をまとめ、自分の考えを伝えよう 読 インターネットは冒険だ	5	I	〔4年〕 段落相互の関係について理解し、文章の構成を捉えることをねらいとする。まず、文章のまとまりを捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教材文を読み、文章構成を捉える。そして、ヤドカリとイソギンチャクの関係について、説明のまとまりに着目しながら読み取り、図や表で表したり、筆者の説明の仕方について考えたりする。 〔5年〕 文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、筆者の考えに対する自分の意見を伝え合うことをねらいとする。まず、「要旨」の意味について、既習事項「要点」「要約」と比べながら学ぶ。次に、「要旨を把握して、筆者の考えに対する自分の意見をもつ」という学習課題を知り、文章に書かれている内容について、叙述をもとに構成を捉え、要旨をまとめていく。インターネットの利用については、個人差があり、聞きなれない言葉もあるので、言葉の意味を確認しながら読む。そして、結論部分を中心に文章の要旨をまとめ、自分が考えたことを伝え合う。
	漢字を使おう2 言葉	1	漢字を使おう2 言葉	1	I	「漢字を使おう1」に同じ。
	引用する 情報	2	事実と考え 情報	1	I	〔4年〕 引用の仕方やルールについて理解して、学んだことを生かしながら適切に引用して文章を書くことをねらいとする。 〔5年〕 教科書56～57ページを読んで「事実と考え」の違いについて確認する。その後、教師が準備した話題について事実と考えを弁別する活動を行う。最後に、自分のクラスについて事実のみで文章を書く活動を行う。
	わたしのクラスの「生き物図かん」 書	9	地域のみりよくを伝えよう 書	7	I	〔4年〕 段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたり、引用の仕方や出典の示し方などを理解して調べたことをまとめたりすることをねらいとする。まず、単元の学習の見通しを持ち、好きな生き物を選び伝えるための材料を集める。段落どうしのまとまりを考えながらリーフレットを作成する。リーフレットを読み合い、自分や友達の手を振り返る。 〔5年〕 文章の筋道を立てながら、タウン誌の記事を書くことをねらいとする。まず「タウン誌」とは何かを知る。教師は、あらかじめいくつかの地域のタウン誌を準備しておく。そして、「タウン誌を作って、地域の魅力を伝えよう」という学習のゴールを立てる。その後、教科書例を参考にしながら、自分のタウン誌を作成していく。その際、一時間ごとに、着目する点を確認し、自分のタウン誌に生かせるようにする。既習である「事実」と「考え」を区別して書くことや、「中」のまとまりを工夫するようにする。
	漢字を使おう3 言葉	1	漢字の成り立ち 言葉	2	I	*4年は教科書の学習順を入れ替える。 〔4年〕 「漢字を使おう1」に同じ。 〔5年〕 漢字の成り立ちを理解することをねらいとする。教科書を参考に、漢字の四種類の成り立ちを、象形文字と指事文字との区別、会意文字と形声文字との区別に注意しながら理解する。その際、教科書の練習問題に取り組んだり、他の漢字について漢字辞典を利用して調べたりする。

月	単元名・教材名 4 年	配当時数	単元名・教材名 5 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
5	ローマ字の書き方 言葉	2	いにしえの言葉に親しもう 伝統	3	Ⅳ	* 4 年は教科書の学習順を入れ替える。 【4 年】ローマ字による日本語の音の表し方や二通りの書き方を理解し、読んだり書いたりすることをねらいとする。学習課題を明確にし、まず、ローマ字の書き方を確かめる。そして、書き方を確かめながら、身近なものや名前、地名をローマ字で書く。 【5 年】古文や近代以降の文語調の文章の言葉の響きやリズムに親しみ、音読したり暗唱したりすることをねらいとする。古文を読んで気づいたことや感じたことについて話し合ったり、自分の考えを書いたりして、自分の考えを広げる。まず、学習課題を確かめた後、「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」をそれぞれ音読し、言葉の響きを味わう。それから、四つの古文から好きなものを一つ選び、気づいたことや感じたことについて話し合う。
6	○物語が変化する場面をとらえよう 読 走れ	8	○物語の組み立てについて考えよう 読 世界でいちばんやかましい音	5	I	【4 年】物語の山場で、何がどのように変化したかを考えて読むことをねらいとする。まず、物語の山場を捉えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教材文を読み、登場人物や山場での変化を捉える。そして、山場での変化とその理由について考えたことを友達と伝え合う。中心人物の変化を捉えるために、「最初はAだったのに、Bによって最後はCになった」という形を与えることで、自分たちで活動を進められるよう促したい。 【5 年】物語の構成を捉えて物語の全体像を具体的に想像し、構成や山場の変化について考えることをねらいとする。まず、学習課題を明確にして「世界でいちばんやかましい音」を読み、物語の構成を捉える。それから、山場で起こる変化について考え、考えたことを友達と伝え合う。物語の山場でどのような変化が起こったと考えたかを中心にまとめ、中心人物である「王子様」だけでなく、ガヤガヤの町の変化にも目を向ける。物語を読む授業においては、出来事をカードにして並べ替えることや、話し合った際の友達の考えをノートに書くなどの活動を間接指導の場に取り入れることにより、学習を成立させるようにする。
	漢字を使おう 4 言葉	1	漢字を使おう 3 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
	人物の気持ちと行動を表す言葉 言葉	2	思考に関わる言葉 言葉	1	I	【4 年】人物の気持ちと行動を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで書くことをねらいとする。教科書 80 ページの例を用いて似た気持ちや行動を表す言葉を出し合い、分類したり程度に応じて並び替えたりする。 【5 年】教科書 90 ページ上段の①～③の文を比べ、判断の度合いによる違いを確かめる。次に④～⑥の文を比べ、どのような違いがあるか考える。そして、練習問題を解き理解を深める。最後に、〇〇の時はどのような言葉を使えばよいか、条件をつけて文作りを行うようにする。
7	山場のある物語を書こう 書	8				組み立てを工夫して、山場のある物語を書くことをねらいとする。単元の学習の見通しを持ち、物語の初めと終わりを決め、時、場所、人物を話し合う。自分の物語の設定と物語の組み立てを考え、「人物カード」や「組み立てメモ」をもとに、物語を書く。最後に、書いた物語を互いに読み合い、楽しいと思ったところやおもしろいと思ったところを伝え合う。今までの物語の学習で学んだことを振り返って、「最初はAだったが、Bによって、最後はCになる話」を書くということを確認する。そこから、中心人物や物語の中で起こる変化について考えさせる。
	○表し方のくふうを考えよう 読 広告を読みくらべよう	6	○書き手の意図を考えよう 読 新聞記事を読み比べよう	5	I	【4 年】同じ商品の二つの広告を読み比べて目的や意図に応じた表現の工夫や効果の違いを読み取ることをねらいとする。まず、広告を読み比べて、表し方の違いを読み取るという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教科書 94～95、96～97 ページの二つの広告に書かれている言葉や写真を読み取り、表現の違いについて理解する。そして、二つの広告に書いてある言葉や写真を比べて、どんな目的や意図でどんな人に向けて作られているものなのかを考えたり、二つの広告全体のレイアウトから受ける印象や、広告の目的や意図による表現の工夫や効果に違いがあることに気づき、その違いをまとめたりする。最後に、身の回りの広告から表現の工夫を見つけて、考えたことを話し合う。 【5 年】新聞記事を題材に、文章全体の構成を捉えたり文章と図表などを関係づけたりして要旨を把握して、書き手の意図について考えることをねらいとする。まず、教科書 94～97 ページを読み、新聞の特徴や役割、記事の構成と写真の役割を理解する。そのうえで、98・99 ページの記事Aと記事Bを読み比べ、共通点や相違点をもとに書き手の意図を考える。このとき、「記事Aと記事Bの写真を入れ替えることができるか。」といった発問をすることで、写真と書き手の意図との関係に気づかせる。その後、各自で新聞を持ち寄り、記事と写真に合った見出しを書く活動を行う。
	述語の形、だいじょうぶ？ 言葉	2				文に合った述語の形を理解し、主語と述語を適切につなげることをねらいとする。まず、102 ページ「どこがおかしいのかな」の三つの吹き出しの文のおかしなところについて話し合い、述語を直す。次に述語の形に気をつけて文を書き、書いた文を互いに見合う。
	四年生の本だな 読書 —本は楽しむもの	2	五年生の本だな 読書 —すてきなこと	2	Ⅲ	* 4・5 年でいっしょに行う。 幅広く読書に親しみ、自分の興味に応じた本を選んで読むことをねらいとして学習する。 4 年教科書108ページ、5 年教科書108ページの読書体験文を読む。「四年生の本だな」「五年生の本だな」で紹介している本などを手がかりにして、自分が興味を持った本やこれまでに読んだことのない本を探して読むことができるようにする。多様な本に触れ、夏休みの読書につなげるようにする。

月	単元名・教材名 4 年	配当時数	単元名・教材名 5 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
9	○詩を読もう 読 ふしぎ よかったなあ	2	○詩を読もう 読 未知へ	1	Ⅱ	〔4 年〕反復などの表現の工夫に着目して詩に描かれた心情を想像し、感想を持って音読することをねらいとする。詩を音読し、想像したことや気づいたことを発表する。そして、それぞれの詩について想像を広げながら、工夫して詩を音読する。 〔5 年〕「未知へ」を読んで考えを深め、自分が感じたことが伝わるように工夫して音読する。 最後に、4・5 年で互いの音読を聞き合い、感想を伝え合う。
	お願いやお礼の手紙を書こう 書	4	心の動きを短歌で表そう 書	4	Ⅲ	〔4 年〕相手や目的に応じて書く事柄や言葉の使い方を考え、手紙の形式に気をつけて、お願いやお礼の手紙を書くことをねらいとする。まず、これまでに学習したことを振り返って、相手や目的に合わせて手紙を書くという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、教科書の手紙例を読み、目的に合わせた内容と、用語を確認する。下書きをして、身の回りの人などに依頼や感謝の手紙を書く。 〔5 年〕表現を工夫しながら、心が動いたことを短歌で表すことをねらいとする。生活経験から題材を選び、全体の構成や書き表し方などに着目して、表現を整えて書いていく。できた作品を読み合い、感想を伝え合ったり、表現のよさや工夫を見つけて共有し合ったりする。
	ことわざ・故事成語を使おう 伝統	4				〔4 年〕ことわざや故事成語について意味や使い方を理解して使うことをねらいとする。国語辞典などを使ってことわざや故事成語の意味や用例を調べ、カードにまとめさせる。カードを集めて冊子を作って、互いに見合う機会を設ける。＊4 年だけで取り組む。5 年が加わるのは可能。➡要検討
	クラスで話し合って決めよう 話聞	6	問題を解決するために話し合おう 話聞	6	Ⅱ	〔4 年〕話し合いの目的を理解して、司会者、提案者、参加者などの役割を果たしながら話し合い、結論をまとめることをねらいとする。まず、役割を考えながら話し合うという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、議題と目的を確かめて、役割を意識しながら、クラスで話し合う。最後に、それぞれの役割でどんなことに気をつけたかを振り返らせ、これからの学習に生かそうという意識を高めることができるようにする。 〔5 年〕意図を明確にしながら計画的に話し合っ、身の回りにある問題の解決方法を見つけることをねらいとする。まず、教師が作成した「話し合いがうまく進んでいない場合のモデル」の文章を読む。どこがよくなかったのかを確認し、教科書 118 ページを読んで、「意図を明確にしながら計画的に話し合う」という学習課題を確認する。そして、教科書例を参考に、考えをまとめていくための方法を学んでいく 毎時間テーマを変えてグループで話し合うようにする。話し合うグループとそれを観察するグループに分かれ、観察するグループには意図を明確にしているか、立場による役割を果たしているかを評価させる。単元の終わりには、クラス全体で一つのテーマについて話し合い、学んだことを実践し、学習を振り返るようにする。
	漢字を使おう 5 言葉	1	漢字を使おう 4 言葉	1		「漢字を使おう 1」に同じ。
	文の組み立てと修飾語 言葉	2				主語、述語、修飾語それぞれの働きを理解し、分の校正を捉えることをねらいとする。まず、主語、述語、修飾語の働きを理解して文の構成を捉えるという学習課題を確かめる。次に、修飾語の役割を知り、主語、述語、修飾語からできている文の構成について理解する。そして、主語、述語、修飾語からなる文の語と語の関係を理解して、文の構成を図示したり文を作ったりする。
	○題名の持つ意味について考えよう 読 一つの花	10	○物語のおもしろさを解説しよう 読 注文の多い料理店	6	I	〔4 年〕物語の題名の意味について、物語の中の叙述と結び付けて具体的に考えることをねらいとする。まず、これまでに学習したことや読書経験を振り返って、題名の意味を考えるという学習課題を明確にし、学習の見通しを持つ。次に、「一つの花」を読み、人物の気持ちの変化を想像する。そして、「一つの花」という題名の意味について考えたことを友達と伝え合う。題名の意味を考えるにあたっては、初読の際に考え、その後、登場人物の気持ちや様子を読み取りながら、それらが題名とどのような結び付きを持つのかについて考えを深めていく。授業の最後に、初読のときとの考えの変化も含めて、題名の意味についての考えを友達と交流する。 〔5 年〕構成や表現の工夫を見つけ、物語のおもしろさを解説する文章を書くことをねらいとする。まず、表現の工夫を見つけて物語のおもしろさを解説する文章を書くという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。教材文を読み、物語の構成を確かめて、物語をおもしろくしている表現の工夫を探す。そして、おもしろさの秘密を解説する文章を書き、友達と読み合う。自分が解説したいテーマを複数選択し、解説文にまとめる。
	漢字を使おう 6 言葉	1	漢字を使おう 5 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
			どうやって文をつなげればいいのか？ 言葉	1		〔5 年〕教科書 146 ページ「どこが分かりにくいのかな」の例文を読み、分かりにくい原因を考える。そして、文の内容を整理し、前後の文の関係を考えて適切な言葉を考える。適切な言葉でつないだ文と初めの文とを比較し、関係を考えてつなぐよさを実感する。最後に、いろいろなつなぎ言葉を使って、文や文章を書き、読み合う。
10	○和室と洋室のよさをしょうかいしよう 読 くらしの中の和と洋	8	○「文化を受けつぐ」ことについて考えよう 読 和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる	6	I	〔4 年〕何をどのように比べているかを読み取り、比較の仕方を意識して、要約して紹介することをねらいとする。まず、「くらしの中の和と洋」を読み、書かれていることを正確に読み取らせる。そして、文章の中から紹介文に使う部分を選んで要約させる。そして完成した紹介文を読み合い、感想を伝え合う場を設定する。ここでは、教材文を読む際に、和室と洋室のそれぞれのよさを、どのような観点に沿って事例を挙げて説明しているのかを確認させる。そして、和室と洋室にはそれぞれのよさがあることを押さえる。このように、実際に紹介文を書く前に、筆者の説明文の書き方の構成も確認させるようにする。 〔5 年〕筆者の言う「文化を受けつぐ」ということについて、ほかの情報を重ね合わせ、自分の考えをまとめて交流することをねらいとする。まず、必要な情報を見つけたり、資料を使って説明したりするという学習課題を知り、学習の見通しを持たせる。「和の文化を受けつぐ」の構成を捉えさせ、筆者の考えを確かめるようにする。そして、筆者の言う「文化を受けつぐ」ということについて、インタビュー記事と重ね合わせて考えさせる。書いたものを読み合わせて、感想を伝え合うようにする。最後に、文章を重ね合わせて読むときに、どのような点に着目してそれぞれの文章のつながりを考えたかを振り返らせる。
	観点を立ててくらべる 情報	2	文章と図表 情報	1	I	〔4 年〕観点を立てて情報を比較することについて理解し、複雑な情報を分かりやすく整理することをねらいとしている。教科書にある例を、表などを用いてさまざまな観点で比較する。 「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。 〔5 年〕教科書 161 ページの漫画を手がかりにして、学習課題を捉え、学習の見通しを持たせる。複雑な情報の整理の仕方や図表の効果的な活用法について理解し、文章の情報を効果的に表現する練習を行う。
	「和と洋新聞」を作ろう 書	7	和の文化を発信しよう 書	5	I	〔4 年〕目的に合わせて材料を整理し、「和と洋新聞」を作ることをねらいとしている。既習事項を確かめ、単元の学習の見通しを持つ。次に、教科書 23 ページの「新聞の例」を確認し、新聞の用語や記事に取り上げられている観点を確認する。その後、新聞に書くことを決めて材料を集める。書いた新聞を互いに読み合い、感想を伝え合う。 〔5 年〕資料を効果的に活用しながら、和の文化のポスターを作ることをねらいとする。前単元「文章と図表」で学習した情報整理の仕方や図表の活用を生かして取り組んでいく。まず、テーマを決めて情報を集めさせる。次に、割り付けを考えさせ、ポスターを作らせていく。ここで、目的に応じてどのような情報を集め、どのように関係づけて効果的に示すのかを工夫させる。その工夫についてポスターの解説文に書いて、ポスターとともに読み合う。最後に、調べた情報を活用するとき、どんなことを工夫したかを振り返らせる。

月	単元名・教材名 4 年	配当時数	単元名・教材名 5 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
11	つなぐ言葉 言葉	2	熟語の構成と意味 言葉	2	I	【4 年】「つなぐ言葉」の働きを理解して、文や文章の中で正しく使うことをねらいとしている。接続する語句の働きを知り、練習題を行って理解を深める。文を文節ごとに区切ったカードを用意し、並び替えたり置き換えたりするなど、児童が自分たちでカードを操作して活動できるようにする。 【5 年】熟語の構成や使い方について理解することをねらいとする。まず、教科書170ページを読み、熟語の構成の六つの型を確かめる。そして、漢字の読み方と意味の関係を確かめ、その後、教科書の練習題に取り組み、理解を深める。このとき、構成④（上が下を修飾する）と⑤（上が動作、下が動作の対象）の区別が難しいという声が児童から出る場合がある。そこで、二字の熟語の場合、④は上から訓読みをする（鉄橋：鉄の橋、再考：再び考える）、⑤は下から訓読みをする（読書：書を読む、乗馬：馬に乗る）という区別の仕方を伝えるようにする。
	聞いてほしいな、こんな出来事 話聞	6	提案します、一週間チャレンジ 話聞	4	II	【4 年】自分が感じたことが聞き手に伝わるように、工夫して話すことをねらいとする。まず、話題を決め、材料を集める。そして、話の中心が明確になるように話を組み立て、練習をする。声の大きさや話す速さ、抑揚、間の取り方、声の調子などを工夫する。ICT 端末で自分の話す姿を撮影して見返したり、教科書 32 ページの QR コンテンツ「動画」を参考にしたりさせる。 【5 年】学校生活をよりよくするための取り組みやイベントを考えて、聞き手の印象に残るように提案することをねらいとする。聞き手の印象に残るように話すという単元の学習の見通しを持たせ、提案するイベントを考えさせる。次に、原稿を書いて、話す練習をする。ICT端末で自分の話す姿を撮影して見返したり、教科書174ページのQRコンテンツ「動画」を参考にしたりさせる。 単元の最後には、4・5 年で互いの話を聞き合う時間を設け、感想や評価を伝え合う。
	じゅく語の意味 言葉	2	和語・漢語・外来語 言葉	2	I	【4 年】二字熟語の構成について理解することをねらいとしている。まず、二字熟語の構成の類型を理解する。次にさまざまな熟語について、構成とその意味を考える。互いに問題を出し合う活動を行ってもよい。 【5 年】和語、漢語、外来語の由来や区別について関心を持つことをねらいとする。まず、教科書176～177ページの和語、漢語、外来語の説明を読ませ、ノートにまとめさせていく。教科書の内容を読み取りノートにまとめるといった、自分で学習を進める方法を取り入れることで、複式学級での授業を成立させていく。身近な語から和語、漢語、外来語を集め、それぞれの言葉を使って文を書いて、使い方や印象の違いなどについて考える。
12	○人物の気持ちの変化を伝え合おう 読 ごんぎつね	13	○人物像について考えたことを伝え合おう 読 大造じいさんとがん	7	I	【4 年】登場人物の気持ちの変化とその理由を想像して伝え合うことをねらいとする。まず、学習課題を捉えて学習の見通しを持たせる。次に、「ごんぎつね」を読ませて、起こった出来事を確かめていく。人物の気持ちがどのように変化していったか考えさせる。その後、登場人物の気持ちについて想像したことを伝え合う。最後に、どんなことを手がかりにして人物の気持ちの変化とその理由を想像したかを振り返らせる。 【5 年】行動や会話などから大造じいさんの人物像を想像し、考えたことを伝え合うことをねらいとする。まず、人物像について考えたことを伝え合うという学習の見通しを持たせる。物語のあらすじを確かめ、大造じいさんの人物像や心情の変化を想像する。情景描写にも着目して心情を読み取っていく。人物像について考えたことやその根拠を書いたものを読み合い、それぞれのよさや、感じ方や考え方の違いを伝え合う。最後に、行動や会話などからどのような人物像を想像したかを振り返らせる。
	漢字を使おう 7 言葉	1	漢字を使おう 6 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
	人物のせいかく と行動を表す言葉 言葉	2	心情を表す言葉 言葉	1	I	【4 年】人物の性格と行動を表す言葉について理解し、意図に合った言葉を選んで文を書くことをねらいとする。教科書 60 ページを読んで学習の見通しを持たせて、人物の性格を表す言葉について理解させていく。人物の性格と行動を表す言葉を集めたり、それらを使って文を書いたりさせる。 【5 年】教科書 198 ページの文例を示し、「すごかった」では感動した気持ちが十分に表されていないことに気づかせて、学習課題を捉えさせる。自分だったらどのような言葉で感動を表すか、教科書に示されている言葉の一つずつ提示していき、選択させるようにする。できた文を、初めの文と比較する。そして、心情を表す言葉について、教科書 199 ページを参考に、言葉集めをしたり、文作りを行ったりすることで心情を表す言葉について理解する。
	言葉の意味と使い方 言葉	4	日本語と外国語 言葉	4	I	【4 年】複数の意味を持つ言葉があることを理解し、意味を考えて文の中で使うことをねらいとする。複数の意味を持つ言葉について理解し、文中での意味を考えたり、複数の意味を国語辞典で調べたりするなどして、言葉の意味への理解を深める。これらの意味のつながりや広がりに着目して言葉への興味を高める。 【5 年】日本語と外国語を比べ、日本語の特徴に気づくことをねらいとする。教科書 203 ページ①「音と文字との関係」から、日本語の特徴を捉えさせる。また、201 ページ②「文の組み立てと語順」から、日本語の特徴を捉えさせる。そして、英語やほかの国の言葉について調べさせ、分かったことや考えたことをまとめることができるようにする。最後に、学習を振り返らせ、日本語の特徴についての理解を確かめることができるようにする。
	百人一首に親しもう 伝統	2				短歌を音読して言葉の響きやリズムを感じ取ったりかるた遊びをしたりしながら、伝統的な文化に親しむことをねらいとする。まず、五・七・五・七・七の音数など、短歌の決まりや百人一首についてについて知る。次に、教科書 66～69 ページの短歌を音読して、言葉の響きやリズムを楽しむ。グループで百人一首のかるた遊びを行う。
	ブックトークをしよう 読書	4	読書の世界を広げよう 読書	2	III	* 4・5 年がいっしょに学習する。実態に応じてどちらかの活動を選択する。 【4 年】ブックトークを通して、読書によって必要な知識や情報が得られることを知り、幅広く読書に親しむことをねらいとする。ブックークについて説明をして、学習の見通しを持たせる。今までに読んだ本を振り返らせ、テーマとともに紹介したい本を集めて選ぶ。そして、発表の準備をして、ブックトークを行う。友達が紹介した本や教科書 74 ページで紹介している本などをきっかけに、今後の読書につなげるようにする。 【5 年】「読書マップ」を作成して紹介し合う活動を通し、自分の考えを広げ、読書生活を豊かにする学習を行う。1 冊の本から関連する複数の本を探して読書マップを作り、紹介し合うという学習の見通しを持たせる。今までに読んだ本を振り返って紹介したい本を選び、つながりのある本を探して「読書マップ」を作る。マップをもとに本を紹介し合う。友達が紹介した本や教科書 206 ページで紹介している本などをきっかけに、今後の読書につなげるようにする。
1	漢字を使おう 8 言葉	1	漢字を使おう 7 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
			いにしえの人のえがく世界 伝統	3		古文とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、現代の自分たちと比べて考えをまとめることをねらいとする「枕草子」とその解説文を読み、昔の人のものの見方や感じ方について、自分たちと比べてみるという学習課題を知る。「枕草子」の作者のものの見方や感じ方を、自分たちと比べながら捉え、四つの季節の中から好きなものを選び、自分が感じるその季節のよさを文章に書く。書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。

月	単元名・教材名 4 年	配当時数	単元名・教材名 5 年	配当時数	取り扱い	単元展開の概要・留意点
1	○日本語の数え方について考えよう 読 数え方を生み出そう	10	○ロボットとの未来について考えよう 読 「弱いロボット」だからできること	6	I	【4 年】日本語の数え方に対する筆者の考えを読み取り、自分の考えを広げることがをねらいとする。まず、学習の見通しを持たせて、教材文を読ませ、筆者がどのように自分の考えを述べているかを確認める。次に、筆者の述べていることに対して、思ったことや考えたことを話し合うとともに、日本語の数え方についての自分の考えを書く。筆者の考えを参考にして、新しい数え方を考えて発表し合う。最後に、筆者の考えを受けてどのように自分の考えを広げていったかを振り返らせる。 【5 年】二つの文章を読み、ロボットとの未来について考えたことを話し合うことをねらいとする。二つの文章を読み、ロボットとの未来について考えたことを話し合うことをねらいとして学習する。学習課題をつかんだ後、テクノロジーの進歩について、知っていることや思ったことを話し合う。資料「ロボット開発は進む」と『『弱いロボット』だからできること』を読んで、ロボットとの未来について多角的に考えていく。そして、テクノロジーと私たちの関わりについて考えをまとめて文章を書き、それを読み合って互いの考えについて話し合う。最後に、二つの文章を読むことで考えがどう変わったり深まったりしたかを振り返らせる。
	漢字を使おう 9 言葉	1	漢字を使おう 8 言葉	1	1	「漢字を使おう 1」に同じ。
	理由をぎんみする 情報	2	考えのちがい 情報	1	I	【4 年】考えの理由を吟味することについて理解し、それを生かして文章を書くことをねらいとする。教科書 92 ページの漫画から学習の見通しを持たせ、理由を吟味する方法について理解させる。課題に取り組ませ、読み手に納得してもらえるように文章を書くことができるようにする。 【5 年】教科書 228 ページの漫画から学習課題を捉えさせる。お互いの考えが違うとき、相手の考えとその理由を確認めることの大切さを理解させ、どのように解決するとよいかについて話し合う。練習問題を使って、お互いが納得できるための理由について考える。 「情報のとびら」は、それぞれ次の「書く」単元と合わせて扱ってもよい。
	自分なら、どちらを選ぶか 書	9	どう考える？ もしもの技術 書	6	I	【4 年】理由を吟味しながら自分の考えを書くことをねらいとする。まず、二種類のちらしの特徴を書き出し、話し合って考えを深める。次に、理由を吟味しながら書くことを整理する。デジタルノートを活用してもよい。組み立てメモを活用しながら、文章全体の組み立てを考える。そして、メモをもとに文章を書き、書いた文章を読み合う。最後に、自分の考えを伝えるためにどんな工夫をしたかを振り返らせる。 【5 年】反対意見を予想しながら、説得力のある意見文を書くことをねらいとする。教科書 230 ページの QR コンテンツ「動画」を視聴して学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。そして、教科書 231～234 ページを参考に、意見文を書いていく。教科書では、三つの「ひみつ道具」が紹介されているので、児童に選択させるようにする。もし、他の「ひみつ道具」について書きたいという児童がいれば認める。構成を考える際には、必ず予想される反対意見とそれへの対応を入れることを確認しておく。
2			方言と共通語 言葉	2		方言と共通語について理解し、場に応じた適切な言葉遣いをすることをねらいとする。教科書を読んで、方言と共通語の違いや、それぞれの特質とよさについて理解する。自分の住む地域の方言について、身近な人にインタビューしたりインターネットで調べたりして、方言に関心を持てるようにする。
	調べたことをほうこくしよう 話聞	9	資料を見て考えたことを話そう 話聞	6	II	【4 年】身の回りのことについてグループでアンケートを行い、調べたことを分かりやすく報告することをねらいとする。調べることを決めて、アンケートを作って調べさせる。次に、アンケートの結果をまとめて、組み立てを考え、話す練習をする。教科書 105 ページの QR「動画」を参考にさせたり、ICT 端末で話す姿を撮影させたりして、練習に生かすようにしてもよい。そして、調べたことをみんなの前で報告する。最後に、調べたことを分かりやすく報告するためにどのようなことに気をつけたかを振り返らせる。 【5 年】「食品ロス」に関する資料を関係づけながら、自分の考えを話すことをねらいとして学習する。まず、教科書 238 ページの動画を視聴し、学習課題をつかみ、学習の見通しを持つ。教科書 239～243 ページを参考に、資料を読んで自分の考えをまとめる。話の構成を考えて、話す練習をする。その際に、QR コンテンツ「動画」を参考にしたり、ICT 端末で自分の話す姿を撮影したりして、練習に生かすようにさせてもよい。最後に、資料を使って自分の考えを聞き手に伝えるためにどのようなことに気をつけたのかを振り返らせる。 どちらも資料と話すことを関係づけている単元である。資料を使った話す際の工夫や留意点については一斉指導で扱う。
	漢字を使おう 10 言葉	1	漢字を使おう 9 言葉	1	I	「漢字を使おう 1」に同じ。
3	同じ読み方の漢字 言葉	1				同じ読み方の漢字について理解して、文や文章の中で使い分けられることをねらいとして学習する。同じ音や同じ訓の漢字と、それぞれの意味について理解できるようにする。そして、さまざまな同じ読み方の漢字を比べて、文の中で使い分けさせる。
	○考えたことを文章にまとめよう 読 世界一美しいぼくの村	12	○伝記を読んで感想文を書こう 読 手塚治虫	5	I	【4 年】物語の結末について感じたことを伝え合い、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことがねらいである。まず、初めて読んだ感想を書かせる。その後、家族や「バグマンの村」に対する「ヤモ」の思いを考えさせていく。そして、物語の終わり方について、考えたことを伝え合う。最後に、物語の終わり方についてどのようなことを感じたり考えたりしたかを振り返らせる。並行して「世界一美しい村へ帰る」（教科書 134 ページ）を読むことに取り組んでもよい。 【5 年】伝記に描かれている人物像を捉え、生き方についての考えをまとめることをねらいとする。伝記に描かれた人物の考えや生き方を読み取り、感想文を書くという学習課題を知り、学習の見通しを持つ。「手塚治虫」を読んで、治虫の考えや生き方を読み取る。そこから治虫の人物像を捉えていく。感想文を書く際には、心に強く残ったことや、手塚治虫と自分とを重ね合わせて考えたこと、生き方について考えたことなどを観点として、感想を膨らませる。感想文を読み合って、お互いのよさや違いを伝え合う。最後に、伝記の人物と自分とを重ね合わせてどのようなことを考えたかを振り返らせる。
	漢字を使おう 11 言葉	1	漢字を使おう 10 言葉	1	I	【4 年】都道府県名の漢字を学習したうえで、それらを使って文を書く。 【5 年】「漢字を使おう 1」に同じ。
	十年後のわたしへ 書	7	わたしの文章見本帳 書	4	III	*4 年「十年後のわたしへ」、5 年「わたしの文章見本帳」のいずれかを選択して、4・5 年でいっしょに行う。 【4 年】1 年間に書いた文章を読み返し、「十年後のわたし」に伝えたいことを手紙に書く活動を通して、自分の文章のよいところを確認めることをねらいとする。まず、1 年間で書いた文章を読み返し、1 年間で振り返る。そして、「十年後のわたし」に手紙を書く。手紙を書く際には、1 年間に学んだ「言葉の力」を生かして書くようにする。最後に自分の文章のよいところを、どう生かしていきたいかを振り返らせる。 【5 年】文章の種類に着目して、自分だけの文章見本帳を作ることがをねらいとする。文章の種類ごとに整理しながら文章のよさを見つけ、そのよさを生かして、書いた文章を別の種類の文章に書き換えていく。この 1 年間に書いた文章を読み直し、教科書 267 ページを参考にして種類ごとに整理する。書いた文章の中から一つ選んで別の文種に書き換えて、これまで書いた文章とまとめて文章見本帳を作る。学級で一冊の文章見本帳としてもよい。